

第3学年

教養系教育・基礎科学教育科目

歯科医療管理学	97
社会歯科学	98
歯科医療人間学Ⅲ	99

生命科学教育科目

口腔生化学Ⅱ	101
口腔生化学実習	103
口腔病理学	104
口腔病理学実習	107
口腔感染免疫学Ⅱ	108
口腔感染免疫学実習	110
歯科薬理学Ⅱ	111
歯科薬理学実習	113
生体材料・歯科材料学Ⅱ	114
生体材料・歯科材料学実習	116
口腔衛生学	117
口腔衛生学実習	119

口腔科学教育科目

保存修復学Ⅰ	121
冠橋義歯補綴学Ⅰ	123
有床義歯補綴学Ⅰ	124
有床義歯補綴学Ⅰ実習	126
口腔外科学Ⅰ	127
高齢者歯科学Ⅰ	129
歯科放射線学Ⅰ	130
法 歯 学	132
総合医学	133
口腔内科学	134

歯科医療管理学

科目責任者：瀬川 洋

担当教員：瀬川 洋, 大橋 明石

1. 科目の概要

歯科医療管理学（Dental practice administration）は、歯科医療を社会に適応するための環境および条件への考察を理論管理論で捉え、それを基本とする手段・行動を実践管理論でとらえる医療の管理学で歯科医療を社会に提供する社会歯科学系の学問です。そこで、本科目では質の高い歯科医療サービスを安定して供給し、患者満足度を高めることにより、地域社会に貢献していくための実践的知識、医療現場において役立つ経営論を総合的に講義する。

2. 一般目標

安心・安全な良質の歯科医療を提供するために必要な歯科医療管理の基礎的事項を理解して、実践できるようにする。

3. 到達目標

- 1) 歯科医療管理の概要について説明できる。
- 2) 診療記録・情報の意義および法令で定められた取り扱いについて説明できる。
- 3) 医療安全確保、医療事故の回避策および発生後の原因追及について説明できる。
- 4) 感染の予防と管理について説明できる。
- 5) 医療保障制度について説明できる。
- 6) ライフステージに応じた食育について説明できる。
- 7) 歯科診療の場における禁煙指導と支援について説明できる。
- 8) 歯科診療所の開設について説明できる。
- 9) 歯科医療経営管理および人事管理について説明できる。
- 10) 医療連携について説明することができる。

4. 講義形態

- (1) 主に投影視覚媒体を用いての講義
- (2) 適宜、テーマに即した問題解決型の演習（受動型学習から能動型学習への切り替え）

5. 時間外学習

予習：シラバスで次回の講義内容を把握するとともに教科書のページが示されている講義項目については予習すること。(30分)

復習：授業資料提示システムを事後の学習に活用すること。質問に関してはオフィスアワーや担当教員のメールアドレスを有効に活用して疑問点の解消に努めること。CBT-Medicalを活用して知識の修得に努めること。(60分)

6. 評価方法

定期試験80％，出席および受講態度（20％）の双方を評価資料（100％）として、65点以上を合格とする。

7. 教科書

歯科医療管理 医療の質と安全確保のために 第1版第3刷 医歯薬出版 2014

8. 参考書

判例からみた医療安全 歯科医療に求められる戦略的なリーガルリスクマネジメント 第1版

第1刷 わかば出版 2014

歯科五法コンメンタールー歯科関連法律の逐条解説ー 第2版 株式会社ヒョーロン・パブリッシャーズ 2016

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：)，出題基準記号(国：)	
1	9月1日	歯科医療管理とは	歯科医療管理学の定義から歯科医療管理について理解する コ：A-3-①②④ 国：総論 I-3-イ	瀬川 洋
2	9月8日	歯科医療の法的性格	歯科医療の法的意義について理解する コ：B-2-1, 2) 国：必修2-ア～ウ	〃
3	9月15日	医療情報リテラシー	診療記録・情報の意義および法令で定められた取り扱いについて理解する コ：B-4-3) 国：必修-5-ア，イ	〃
4	9月29日	歯科医療における安全管理	医療安全確保に関する法令について再確認する コ：A-5-1) 国：必修-2-ウ	〃
5	10月6日	医療事故の防止	医療事故の回避策，発生後の原因追及について理解する コ：A-5-2)，F-4-① 国：必修-4-イ	〃
6	10月13日	医療裁判	医事紛争の原因，防止および解決について理解する コ：A-5-2)-④ 国：必修-4-エ	〃
7	10月20日	院内感染対策	感染の予防と管理，抗菌薬の適正使用について理解する コ：A-5-3)，F-4 国：必修-4-ウ	大橋 明石
8	10月27日	医療保障制度	医療保障および医療保険制度の概要について理解する コ：B-2-2)-② 国：総論 I-6-ア～ウ	〃
9	11月10日	食育と食の支援	ライフステージに応じた食育について理解する コ：E-1-6)-(2)-⑦ 国：各論 I-7-ア～エ	瀬川 洋
10	11月17日	禁煙指導・支援	禁煙指導と支援による歯周疾患や口腔がん等の予防について理解する コ：E-1-6)-(2)-⑥ 国：各論 I-6-オ	〃
11	11月24日	歯科診療所の開設	開業時の開設に関わる手続と法的事項について理解する コ：B-2-2)-② 国：総論 I-3-イ	〃
12	12月1日	歯科医療経営管理	歯科医療経営に必要な法律と基礎的事項について理解する コ：F-5 国：必修-16-ア～エ	〃
13	12月8日	医療の質の確保	医療の質と患者満足度について理解する コ：A-3 国：4-ア	〃
14	12月15日	かかりつけ歯科医と専門医	かかりつけ医の機能と経営について理解する コ：B-2-2) 国：総論 I-4-キ	〃
15	12月22日	医療連携	チーム歯科医療および地域連携クリニカルパスについて理解する コ：A-7-3) 国：総論 I-3-キ	〃

社会歯科学

科目責任者：廣瀬 公治

担当教員：廣瀬 公治，大橋 明石，並木 一郎（非常勤講師）

1. 科目の概要

社会歯科学は、歯科医師が歯科医療と保健活動を実施するための制度を学ぶ学問である。本科目では歯科医師として当然具備されなければならない医療倫理も含め歯科医療を取り巻く社会規範や社会情勢を学ぶ。

2. 一般目標

歯科医師としての適切な倫理規範の理解を基礎とし、医療人として当然の規範意識を涵養するための必要な知識を習得する。

3. 到達目標

- 1) 医を取り巻く社会環境を説明できる。
- 2) 医の倫理規範を説明できる。
- 3) 患者の権利とインフォームドコンセントを説明できる。
- 4) 歯科医師の刑事・民事・行政責任を説明できる。
- 5) 歯科医療関連法規を説明できる。
- 6) 衛生行政機構を説明できる。
- 7) 社会保障制度を説明できる。
- 8) 国民医療費を説明できる。

4. 講義形態

板書中心の講義を行うので講義ノートを作る。

5. 時間外学習

予習：新聞等から保健医療に関わる情報を取得しておく。(30分)

復習：板書内容を復習する。(30分)

その他：

6. 評価方法

定期試験100%とし、65点以上を合格とする。

7. 教科書

なし

8. 参考書

スタンダード社会歯科学 第6版，学建書院

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：)，出題基準記号(国：)	
1	4月11日	社会歯科学概論	社会歯科学の目的 コ：A-1, A-2, A-3, A-4 国：必修1-ア, イ	廣瀬 公治
2	4月11日	健康論	健康の概念と定義，プライマリーヘルスケアとアルマアタ宣言，ヘルスプロモーション，オタワ憲章，リハビリテーション，ノーマライゼーション コ：A-1, A-2, A-3, A-4 国：必修1-ア, イ	
3	4月18日	歯科医療倫理	ヘルシンキ宣言，患者の自己決定権，リスボン宣言，尊厳死，シドニー宣言，インフォームドコンセント，憲法第13条 コ：A-1-①②③, A-2-①② 国：必修1-ア-abc, 2-オ-a	〃
4	4月25日	医療と法律1	日本の統治機構，日本国憲法と衛生行政 コ：B-2-2)① 国：必修2-ウ-abcdef	
5	5月9日	医療と法律2	刑事・民事・行政責任 コ：A-3-⑤ 国：必修4-エ-ab	〃
6	5月16日	医療と法律3	歯科医師法 コ：A-3-⑤, B-2-1)① 国：必修2-ウ-a	
7	5月23日	医療と法律4	歯科衛生士法，歯科技工士法，医師法，薬剤師法 コ：B-2-1)③④ 国：必修2-ウ-bcde	〃
8	5月30日	医療と法律5	医療法，医療安全，薬事関連法 コ：A-5-1)⑥, B-2-1)② 国：必修2-ウ-e	
9	6月6日	社会保障制度1	社会保障概論，社会保険制度(医療) コ：B-2-2)①② 国：必修16-オ-b	〃
10	6月13日	社会保障制度2	社会保険制度(介護) コ：B-2-2)③ 国：必修16-オ-b	
11	6月13日	社会保障制度3	社会保障制度(年金，雇用，労災) 生活保護制度 コ：B-2-2)④ 国：必修16-エ-b	〃
12	6月20日	社会保障制度4	公費医療制度(養育医療，自立支援医療，療育医療等) コ：B-2-2)④⑤⑥ 国：総論Ⅰ-1-2-ウ	
13	6月27日	国民医療費	国民医療費の構成，国民医療費と歯科診療医療費 コ：B-2-2)①② 国：総論Ⅰ-2-ウ	〃
14	7月4日	保健医療統計 国際保健協力	保健医療に関する統計と最近の傾向 JICA, ODA コ：B-4-2)①②③ 国：総論Ⅱ-9-アイ	
15	7月11日	厚生労働行政	厚生労働行政と歯科医師との関わり コ：B-2-2)⑧⑨ 国：総論Ⅰ-3-ア	並木 一郎

歯科医療人間学Ⅲ

科目責任者：瀬川 洋

担当教員：瀬川 洋，清野 晃孝，中川 敏浩，竜 立雄，鈴木 敏城，唐沢 明，
山崎 信也，吉田いくよ（非常勤講師），鈴木 俊子（非常勤講師）ほか

1. 科目の概要

歯科医療人間学（Dental Practice Human Science）は、本学歯学部目的である「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師の養成」を実践する学問であり、高度専門職業人（プロフェッショナル）としての歯科医師である前に社会人としての素養，教養および社会適応能力を高揚し，自らのホスピタリティマインドに加えて，患者中心の医療を全人的に捉えるため，身体面，心理面，社会面，倫理面の各要素を総合的かつ包括的に理解し，「歯科医療の安全・安心・信頼の文化」を醸成することにある。

2. 一般目標

人間性豊かな優れた歯科医師となるために，大学で学ぶ目的を明確化し，歯学医療現場にふれ，基本的なコミュニケーションや日常習慣の重要性を認識する態度，知識および技能を修得する。

3. 到達目標

- 1）医療現場でのルールを理解する。
- 2）医療人として謙虚な態度を示す。
- 3）患者の訴えを正確に聞き取る。
- 4）基本的な会話で診療情報を尋ねる。

4. 講義形態

グループおよびペアによる学修を行う。授業形態はプリントを配布し，レポート提出形式をとることもあるので受動的な学習でなく，必ず参加が義務づけられる能動的学習である。

5. 時間外学習

予習：シラバスで内容を確認する。また，人と接する時は状況を把握し，意識をして対応することを日頃から心がける。（30分）

復習：プリント学修や実演したことを自然に実践できるように日々訓練をする。

6. 評価方法

各講義演習で行われた小テスト，視覚による評価，レポート，見学評価をすべて100点満点換算して点数を算出する（①）。最終日に行われる各コースの形成的評価をすべて100点満点に換算して点数を算出する（②）。①に0.5を乗じ（③），②に0.5を乗じ（④），③と④を加算して65点以上を合格とする。

7. 教科書

なし

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:)，出題基準記号(国:)	
1	4月7日	オリエンテーション	3年次の歯科医療人間学の目的を概説する コ：A-7-1)-①②③ 国：必修-8-イ-a～f	中川 敏浩 竜 立雄 ほか
2	4月11日	ある医療事故から（K J法）	実際に起こった歯科医療事故から検証し，防止策を探る コ：A-5-1)-①②③④⑤ 国：必修-8-ア-a～c	清野 晃孝 中川 敏浩
3	4月14日	ある医療事故から	実際に起こった歯科医療事故から検証し，防止策を探る（発表） コ：A-5-1)-①②③④⑤ 国：必修-8-ア-a～c	〃
4	4月21日	口頭表現・傾聴・アサーションの実践Ⅰ	コミュニケーションの復習と実践・演習 コ：A-7-1)-①②③ 国：必修-8-イ-a～f	唐沢 明
5	4月28日	口頭表現・傾聴・アサーションの実践Ⅱ	好感度，信頼度アップの会話とは？ コ：A-7-1)-①②③ 国：必修-8-イ-a～f	〃
6	5月12日	口頭表現・傾聴・アサーションの実践Ⅲ	敬語・言葉遣い・傾聴力のトレーニング コ：A-7-1)-①②③ 国：必修-8-イ-a～f	〃
7	5月19日	聴くこと・伝えることⅠ	如何に正確に伝わるか，伝えるか コ：A-7-2)-①②③④ 国：必修-8-イ-a～f	吉田いくよ 鈴木 俊子 中川 敏浩
8	5月26日	聴くこと・伝えることⅡ	如何に正確に伝わるか，伝えるか コ：A-7-2)-①②③④ 国：必修-8-イ-a～f	吉田いくよ 鈴木 俊子 竜 立雄
9	6月2日	パワーパフォーマンスを身に付けようⅠ	印象的な非言語コミュニケーションを会得する。 コ：A-7-2)-①②③④ 国：必修-8-イ-a～f	〃
10	6月9日	パワーパフォーマンスを身に付けようⅡ	ソーシャルスキルを会得する コ：A-7-2)-①②③④ 国：必修-8-イ-a～f	〃
11	6月16日	医療面接に向けて①	医療面接での会話と重要ポイントについて コ：A-7-2)-①②③④ 国：必修-8-イ-a～f	唐沢 明
12	6月23日	医療面接に向けて②	好感度・信頼度を上げるコミュニケーション実践 コ：A-7-2)-①②③④ 国：必修-8-イ-a～f	〃
13	6月30日	ある医療事故から（二次元展開法）	実際に起こった歯科医療事故から検証し，防止策を探る。 コ：A-5-1)-①②③④⑤ 国：必修-8-ア-a～c	清野 晃孝 中川 敏浩 竜 立雄
14	7月7日	ある医療事故から	実際に起こった歯科医療事故から検証し，防止策を探る。（発表） コ：E-4-4)-①⑤ 国：必修-16-オ-c～f	〃
15	7月14日	形成的評価	形成的評価試験を行う	瀬川 洋 唐沢 明 吉田いくよ 鈴木 俊子 中川 敏浩 竜 立雄 鈴木 敏城

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
16	9月1日	OSCE課題体験講義実習	OSCE課題体験講義実習 コ：E-1～4 国：必修-15, 総論-VIII, 各論Ⅱ, Ⅲ	山崎 信也 ほか
17	9月8日	OSCE課題体験講義実習	OSCE課題体験講義実習 コ：E-1～4 国：必修-15, 総論-VIII, 各論Ⅱ, Ⅲ	
18	9月15日	OSCE課題体験講義実習	OSCE課題体験講義実習 コ：E-1～4 国：必修-15, 総論-VIII, 各論Ⅱ, Ⅲ	〃
19	9月29日	OSCE課題体験講義実習	OSCE課題体験講義実習 コ：E-1～4 国：必修-15, 総論-VIII, 各論Ⅱ, Ⅲ	
20	10月6日	OSCE課題体験講義実習	OSCE課題体験講義実習 コ：E-1～4 国：必修-15, 総論-VIII, 各論Ⅱ, Ⅲ	〃
21	10月13日	OSCE課題体験講義実習	OSCE課題体験講義実習 コ：E-1～4 国：必修-15, 総論-VIII, 各論Ⅱ, Ⅲ	
22	10月20日	OSCE課題体験講義実習	OSCE課題体験講義実習 コ：E-1～4 国：必修-15, 総論-VIII, 各論Ⅱ, Ⅲ	〃
23	10月27日	OSCE課題体験講義実習	OSCE課題体験講義実習 コ：E-1～4 国：必修-15, 総論-VIII, 各論Ⅱ, Ⅲ	
24	11月10日	OSCE課題体験講義実習	OSCE課題体験講義実習 コ：E-1～4 国：必修-15, 総論-VIII, 各論Ⅱ, Ⅲ	〃
25	11月17日	OSCE課題体験講義実習	OSCE課題体験講義実習 コ：E-1～4 国：必修-15, 総論-VIII, 各論Ⅱ, Ⅲ	
26	11月24日	OSCE課題体験講義実習	OSCE課題体験講義実習 コ：E-1～4 国：必修-15, 総論-VIII, 各論Ⅱ, Ⅲ	〃
27	12月1日	OSCE課題体験講義実習	OSCE課題体験講義実習 コ：E-1～4 国：必修-15, 総論-VIII, 各論Ⅱ, Ⅲ	
28	12月8日	OSCE課題体験講義実習	OSCE課題体験講義実習 コ：E-1～4 国：必修-15, 総論-VIII, 各論Ⅱ, Ⅲ	〃
29	12月15日	OSCE課題体験講義実習	OSCE課題体験講義実習 コ：E-1～4 国：必修-15, 総論-VIII, 各論Ⅱ, Ⅲ	

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
30	12月22日	形成的評価	形成的評価試験を行う	山崎 信也 瀬川 洋 清野 晃孝 中川 敏浩 竜 立雄

口腔生化学Ⅱ

科目責任者：加藤 靖正

担当教員：加藤 靖正，前田 豊信，鈴木 厚子，半田 慶介（非常勤講師）

1. 科目の概要

生化学は代謝という化学的な側面から生体の成り立ちを理解する学問である。暗号化され細胞の核に保存されている遺伝情報は基本的にタンパク質の一次構造でしかないが，生体には脂質や糖質などたくさんの物質から成り立っている。遺伝情報を司る核酸そのものさえ，糖やアミノ酸，リン酸などから合成されているのである。口腔生化学Ⅱでは，歯科・口腔領域に特化した生化学について専門的に学ぶ。また，癌のやメタボリックシンドロームなど社会的に問題となっている病態について生化学的側面から理解を深めるとともに，遺伝学の一端として，先天性疾患について臨床科目での講義に先立ち，これらの発症原因となっている障害遺伝子の本来の役割などを学習することによって，病態との関連性に対する理解を深める。

2. 一般目標

歯科・口腔領域として，細胞外マトリックス分子，骨，軟骨，歯，唾液，及び齲蝕について焦点を絞り，構造と機能について学習する。また，遺伝学として，染色体異常，結合組織の異常，色素沈着のみられる疾患，新生児のマススクリーニング対象疾患などについて焦点を絞り，遺伝形式と病態の基本的事項について学ぶ。

3. 到達目標

- 1) DNAの複製，セントラルドグマについて説明できる。
- 2) 細胞内情報伝達機構について説明できる。
- 3) 細胞外マトリックス分子の構造と機能について説明できる。
- 4) 硬組織の構造と機能を説明できる。
- 5) 血清カルシウムのホメオスタシスについて説明できる。
- 6) 唾液・プラーク・齲蝕の分子機構について説明できる。
- 7) 遺伝病・遺伝子病の成因について例を挙げて説明できる。

4. 講義形態

「スタンダード生化学・口腔生化学（教科書）」の内容を板書中心に講義により行う。適宜，プリント，パワーポイントなどを用いて教授する。項目毎に小テストを行い習熟度の確認を行う。

5. 時間外学習

予習：教科書（該当箇所のページ）を読み，講義内容の大枠を把握するとともに疑問点を見出しておく。（45分）

復習：講義内容を整理するとともに，事前に生じた疑問点について解決したかを確認する。

その他：新たに生じた疑問点などについては，教科書の利用や教員への質問等により早期に克服する。

6. 評価方法

小テスト（30％）と定期試験（70％）により評価し，65点以上を合格とする。

7. 教科書

スタンダード生化学・口腔生化学 第2版（学研書院）

8. 参考書

口腔生化学 第5版（医歯薬出版）

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：)，出題基準記号(国：)	
1	4月8日	遺伝子と遺伝Ⅰ	スクレオチドの基本構造，セントラルドグマ，基本転写因子，転写調節機構 (P.104-107, 116-123) コ：C-1-2)① 国：必6-ア-a, 総Ⅲ-1-エ	加藤 靖正
2	4月8日	遺伝子と遺伝Ⅱ	DNAの複製とPCR法 コ：C-1-2)① 国：必6-ア-a, 総Ⅲ-1-エ	〃
3	4月15日	遺伝子と遺伝Ⅲ	DNAの修復機構, 遺伝子工学 (P.102-103, 108-115) コ：C-1-2)① 国：必6-ア-a, 総Ⅲ-1-エ	〃
4	4月15日	細胞外マトリックス分子Ⅰ	コラーゲンの構造，分布，合成，分解。壊血病 (P.170-175, 178-179, 188-189) コ：C-1-4)③, C-2-3)④ 国：必6-ア-c, 総Ⅲ-1-カ	〃
5	4月22日	小試験①	小試験を実施し習熟度を評価する。	加藤 靖正 前田 豊信 鈴木 厚子
		細胞外マトリックス分子Ⅱ	弾性繊維・エラスチン・フィブリリン，Marfan症候群 (P.176-179, 331) コ：C-1-2)⑤, C-1-4)③, C-2-3)④ 国：必6-ア-c, 総Ⅲ-1-カ	加藤 靖正
6	4月22日	細胞外マトリックス分子Ⅲ	細胞接着性糖蛋白質，種類と分布，RGD配列，細胞外マトリックス分子の受容体(インテグリン) コ：C-1-4)③ 国：必6-ア-c, 総Ⅲ-1-カ	加藤 靖正
7	5月6日	細胞外マトリックス分子Ⅳ	細胞外マトリックス分子の分解(MMP，その他のプロテアーゼ) (P.184-190) コ：C-1-4)③ 国：必6-ア-c, 総Ⅲ-1-カ	〃
8	5月6日	細胞外マトリックス分子Ⅴ	グリコサミノグリカンとプロテオグリカン (P.180-183) コ：C-1-4)③ 国：必6-ア-c, 総Ⅲ-1-カ	〃
9	5月13日	小試験②	小試験を実施し習熟度を評価する。	加藤 靖正 前田 豊信 鈴木 厚子
		硬組織Ⅰ	無機質：ヒドロキシアパタイト，石灰化機構①：押し上げ説，エビタキシー説，基質小胞説 (P.196-202, 226-229) コ：C-1-2)① 国：必6-ア-a, 総Ⅲ-1-エ	加藤 靖正
10	5月13日	硬組織Ⅱ	石灰化機構②基質小胞性石灰化とコラーゲン性石灰化 (P.225) 硬組織に存在する有機質(コラーゲン，アメロゲニン，ホスホホリンなど) (P.196-202) コ：C-2-3)-(1)⑦ 国：必6-ア-c, 総Ⅲ-1-カ, 総Ⅴ-3-ク	〃
11	5月16日 (振替日)	硬組織Ⅲ	骨・軟骨形成(膜性骨化・軟骨性骨)，骨芽細胞の分化 (P.210-214) コ：C-2-3)-(1)⑥	加藤 靖正

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
12	5月16日 (振替日)	硬組織Ⅳ	破骨細胞の分化、骨吸収、骨のリモデリング(P.215-221) コ：C-2-3)-(2)③ 国：必6-ア-c, 総Ⅲ-1-カ, 総Ⅴ-3-ケ	加藤 靖正
13	5月20日	小試験③	小試験を実施し習熟度を評価する。	
		----- 硬組織Ⅴ	血清カルシウム濃度の調節機構(P.192-195) コ：C-2-3) 国：必6-ア-c, 総Ⅲ-1-カ, 総Ⅴ-3-ケ	加藤 靖正
14	5月20日	硬組織の疾患と原因	骨粗鬆症、くる病・骨軟化症、大理石病、骨形成不全症、エナメル質形成不全、象牙質形成不全症、慢性腎不全、副甲状腺機能亢進症(P.230-232, 326, 327) コ：C-2-3) 国：必14-ア-b	加藤 靖正
15	5月27日	唾液腺と唾液Ⅰ	唾液腺の種類、唾液の成分と機能(無機質：緩衝作用、イオン交換作用)、排泄作用(P.234-237) コ：E-2-2)④ 国：必6-イ-c, 必6-エ-c, 総Ⅳ-3-ソ	前田 豊信
16	5月27日	唾液腺・唾液Ⅱ	唾液の成分と機能(有機質：潤滑作用、消化作用、抗菌作用、抗脱灰作用)(P.238-243, 265) コ：E-2-2)④, ⑤ 国：必6-イ-c, 必6-エ-c, 総Ⅳ-3-ソ	〃
17	6月3日	ペリクル	組成と機能(P.246-249) コ：E-2-2) 国：必14-イ-a	〃
18	6月3日	歯石	組成と特徴(P.250-251) コ：E-3-2)⑤ 国：必14-イ-a	〃
19	6月10日	齲蝕Ⅰ	齲蝕の成因、プラーク(グルカン、フルクタン)、酸産生(P.252-255) コ：E-3-2)① 国：必6-エ-d, 必14-イ-a	半田 慶介
20	6月10日	齲蝕Ⅱ	アパタイトの崩壊、ステファン曲線、再石灰化、フルオロアパタイトと酸抵抗性(P.256-261) コ：E-3-2)① 国：必14-イ-a	〃
21	6月17日	小試験④	小試験を実施し習熟度を評価する。	加藤 靖正 前田 豊信 鈴木 厚子
		----- 細胞間コミュニケーションⅠ	ホルモン、増殖因子、サイトカイン(P.152-161) コ：C-1-2)① 国：必6-ア-a, 総Ⅲ-1-エ	加藤 靖正
22	6月17日	細胞間コミュニケーションⅡ	細胞内情報伝達機構(アデニレートシクラーゼ、ホスホリパーゼC)(P.146-151, 164-166) コ：C-1-2)① 国：必6-ア-a, 総Ⅲ-1-エ	〃
23	6月24日	細胞の老化	テロメアとテロメラーゼ(P.308, 309) コ：C-4-1)③, C-4-5)① 国：必16-ア-a, 総Ⅲ-1-エ, 総Ⅴ-1-ク	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
24	6月24日	細胞周期とアポトーシス	転写因子, E2F, サイクリン, p53, RB, カスパーゼ, CAD, ICAD, アポトーシスの実行機序, プログラム細胞死(P.246-253) コ：C-1-3)③, ④, C-4-1)③ 国：総Ⅵ-2-ウ, 総Ⅵ-7-ア	加藤 靖正
25	7月1日	癌Ⅰ	癌の特性、発癌機構、癌遺伝子、癌抑制遺伝子(P.296-302) コ：C-1-3)③, C-4-5)① 国：総Ⅵ-7-ア	〃
26	7月1日	癌Ⅱ	アポトーシスの回避、老化の回避、転移機構(P.138, 139, 303) コ：C-1-3)③, ④, C-4-5) 国：総Ⅵ-7-ア	〃
27	7月8日	遺伝性疾患と代謝異常症Ⅰ	遺伝、染色体異常症：Down症候群, Turner症候群, Klinefelter症候群(P.330-331) 色素沈着を伴う疾患：Addison病, von Recklinghausen病, Peutz-Jeghers症候群, McCune-Albright症候群(P.330-331) コ：C-1-2)⑤, E-2-4)④ 国：総Ⅵ-7-ア	〃
28	7月8日	遺伝性疾患と代謝異常症Ⅱ	結合組織の疾患：壊血病, Ehlers-Danlos症候群, Marfan症候群, 表皮水泡症, 新生児のマススクリーニング対象疾患, 血友病, サラセミアと鎌状赤血球貧血(P.330-331) コ：C-1-2)⑤ 国：総Ⅵ-7-ア	〃
29	7月15日	小試験⑤	小試験を実施し習熟度を評価する。	加藤 靖正 前田 豊信 鈴木 厚子
		----- メタボリックシンドロームⅠ	摂食ホルモン(P.322, 323) コ：C-1-1)⑤, C-2-3)-(8)① 国：必3-ア-e	加藤 靖正
30	7月15日	メタボリックシンドロームⅡ	動脈硬化, 痛風, 糖尿病(P.324-325) コ：C-2-3)-(8)① 国：必3-ア-e	加藤 靖正

口腔生化学実習

科目責任者：加藤 靖正

担当教員：加藤 靖正，前田 豊信，鈴木 厚子，原元 信貴（非常勤講師）

1. 科目の概要

生化学は、物質代謝の面から生命の成り立ちを理解する学問である。そこから発生した分子生物学や遺伝子工学などは、核酸を主として扱うことに特化した学問で、生化学との深い関わりの中で発展してきた。ヒトゲノム計画終了により、染色体上の遺伝子配列が全て決定されたのも、分子生物学や遺伝子工学といった分野の進歩が大きく寄与している。そこで、本実習では、生体を構成する基本的な物質、医学的に重要な血液検査項目、さらに遺伝子の解析方法まで幅広く実体験してもらい、座学での知識をさらに深めることを目的としている。

2. 一般目標

- 1) 測定機器の取り扱い方を習得する。
- 2) 測定法の原理と特異性を理解する。
- 3) 解析方法の理論と技術を習得する。

3. 到達目標

- 1) 測定機器の基本的な取り扱いができる。
- 2) 生体構成物質の基本的な取り扱いができる。
- 3) 測定法の原理を説明できる。
- 4) 測定した結果をまとめることができる。
- 5) 測定した値の意味を考察できる。

4. 講義形態

実習を行う。実習の前後には、概要の説明とまとめを行う。全日程中、3回に分けて実習試験を実施し、習熟度を評価する。実習試験の前には、振り返り学習の時間を設けてあり、教員側からの解説に引き続き、自学習によって要点を整理する。適宜プリントを配布する。

5. 時間外学習

予習：教科書（該当箇所のページ）を読み、実習内容の大枠を把握するとともに疑問点を見出しておく。（20分）

復習：実習内容を整理するとともに、事前に生じた疑問点について解決したかを確認する。

その他：新たに生じた疑問点などについては、教科書の利用や教員への質問等により早期に克服する。

6. 評価方法

筆記による実習試験3回の平均（70％）とレポート（25％）、および、実習態度（5％）により評価し、65点以上を合格とする。

7. 教科書

生化学実習（医歯薬出版）

スタンダード生化学・口腔生化学 第2版（学研書院）

8. 参考書

口腔生化学 第5版（医歯薬出版）

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：)，出題基準記号(国：)	
1	4月6日	基本操作	生化学実習の諸注意，器具の取り扱い方，測定機器の取扱い方	加藤 靖正 前田 豊信 鈴木 厚子 原元 信貴
2	4月13日	タンパク質Ⅰ（血清蛋白質）	血清蛋白質の分離とその意義 コ：C-1-1) 国：必6-ア-d	〃
3	4月20日	タンパク質Ⅱ（酵素）	AST，ALT活性の測定その意義 コ：C-1-1) 国：必6-ア-d	〃
4	4月27日	糖	血糖の測定とその意義 コ：C-1-1) 国：必6-ア-d	〃
5	5月11日	解説講義	糖，蛋白質，酵素（Ⅰ，Ⅱ）についてのまとめ コ：C-1-1) 国：必6-ア-d	〃
6	5月18日	振り返り学習 ----- 試験①	自学習（復習・知識の整理） ----- 試験を実施し，学習効果を確認する。	〃
7	5月25日	石灰化Ⅰ	アルカリホスファターゼの活性測定 コ：C-2-3) 国：総V-3-コ	〃
8	5月30日 （振替日）	石灰化Ⅱ	硬組織の無機質（CaとPの定量） コ：C-2-3) 国：必6-ア-c	〃
9	6月1日	唾液	アミラーゼ活性の測定とその意義 コ：C-1-1)，C-2-3)，E-2-2) 国：必6-エ-c	〃
10	6月8日	解説講義	石灰化（Ⅰ，Ⅱ），唾液についてのまとめ コ：C-1-1)，C-2-3)，E-2-2) 国：必6-エ-c	〃
11	6月15日	振り返り学習 ----- 試験②	自学習（復習・知識の整理） ----- 試験を実施し，学習効果を確認する。	〃
12	6月22日	核酸Ⅰ	DNAの取り扱い方。PCR法。 コ：C-1-2) 国：必6-ア-a，総Ⅲ-1-エ	〃
13	6月29日	核酸Ⅱ	アメロゲニン遺伝子の制限酵素切断部位の相違を利用した性別鑑定 コ：C-1-2) 国：必6-ア-a，総Ⅲ-1-エ	〃
14	7月6日	解説講義	核酸（Ⅰ，Ⅱ）についてのまとめ コ：C-1-2) 国：必6-ア-a，総Ⅲ-1-エ	〃
15	7月13日	振り返り学習 ----- 試験③	自学習（復習・知識の整理） ----- 試験を実施し，学習効果を確認する。	〃

口腔病理学

科目責任者：伊東 博司

担当教員：伊東 博司, 遊佐 淳子, 櫻井 裕子, 高田 隆 (客員教授)

1. 科目の概要

口腔病理学は病気の原因、経過およびその結果生じる形態的・機能的変化を学ぶことによって、病気の本質を理解することを目的としている。口腔病理学の前期講義では、病理学総論として、細胞傷害と細胞の適応現象、代謝障害、循環障害、炎症、免疫病理、遺伝性疾患と奇形、および腫瘍について講義する。病理学総論の後には、齶蝕を初めとする歯牙硬組織疾患、歯髓、根尖部歯周組織、辺縁部歯周組織、顎骨、口腔粘膜、唾液腺等の顎口腔領域に発生する疾患について、分類、原因、病理発生、臨床像および病理組織像などを講義する。口腔病理学は臨床歯学に深く関連することから、臨床歯学を学ぶ前に口腔病理学を充分理解しなければならない。

2. 一般目標

- 1) 疾病を総括的に理解するために病理学総論として、細胞の傷害と細胞の適応現象、代謝障害、循環障害、免疫病理、炎症、腫瘍、遺伝性疾患と奇形について概略を学ぶ。
- 2) 歯科臨床における疾病を理解するために、病理学各論 (口腔病理学) として、齶蝕をはじめとする歯牙硬組織疾患、歯髓、根尖部および辺縁部の歯周組織、顎骨、口腔粘膜、唾液腺等の顎骨領域全般における疾患について、分類、原因、病理発生、臨床像および病理組織像の特徴などを学ぶ。

3. 到達目標

- 1) 細胞傷害と細胞の適応現象を説明する。
- 2) 代謝障害の病変を説明する。
- 3) 循環障害の病変を説明する。
- 4) 炎症の原因と分類を説明する。
- 5) 免疫反応による病変を説明する。
- 6) 遺伝性疾患の病変を説明する。
- 7) 腫瘍の特徴と病変を説明する。
- 8) 顎口腔領域疾患の分類、原因および病変を説明する。

4. 講義形態

スライド投影を主体とした講義を行う。また、講義プリントを適宜配布する。

5. 時間外学習

- 予習：第2学年の解剖学・組織学・感染免疫学で講義された事項で、口腔病理学各回講義に関連することを復習する。(30分)
- 復習：各回講義の内容を理解し、記憶する。(60分)
- その他：復習しても理解できないことはオフィスアワーで質問する。(30分)

6. 評価方法

前期・後期のいずれも、講義内容に関する筆記試験 (97%) と出席状況 (3%) で評価する。前期成績65点以上、かつ、後期成績65点以上の者のみ合格とする。

7. 教科書

- 坂本 穆彦ら 編 「標準病理学」第5版 医学書院 2015年
- 下野 正基ら 編 「新口腔病理学」医歯薬出版 2008年

8. 参考書

- 田村浩一 著 「図解入門 よくわかる病理学の基本としくみ」秀和システム 2011年
- 長村義之ら 編 「NEWエッセンシャル病理学」第6版 医歯薬出版 2009年

青笹克之 編 「解明 病理学」医歯薬出版 第2版 2013年

賀来 亨 編 「スタンダード口腔病態病理学」第2版 学建書院 2013年

高田 隆ら 編 「口腔病理アトラス」第2版 文光堂 2006年

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
1	4月6日	病理学概論, 病因論	病理学とは何か、疾病とはどういう状態かについて説明し、疾病の原因を内因と外因に分け、互いの関連、それぞれの種類について述べる コ：C-4 国：総論VI-1-イ	伊東 博司
2	4月6日	組織・細胞の傷害(I)	細胞傷害のメカニズムと、細胞傷害によって生じる変性・壊死の形態的特徴を述べる 空胞変性、脂肪変性、硝子変性を説明する コ：C-4-1)-① 国：総論VI-2-ア	〃
3	4月13日	組織・細胞の傷害(II)	角質変性、粘液変性、色素変性、石灰変性を説明する コ：C-4-1)-① 国：総論VI-2-ア	〃
4	4月13日	組織・細胞の死	壊死の種類と形態学的特徴を説明する アポトーシスの概念、形態的特徴を壊死との比較において説明する コ：C-4-1)-②,③ 国：総論VI-2-ウ	〃
5	4月20日	細胞組織の適応現象(I)	刺激に対する細胞の適応現象である萎縮、肥大を説明する コ：C-4-1)-④ 国：総論VI-2-イ, 総論VI-3-イ	〃
6	4月20日	細胞組織の適応現象(II)	刺激に対する細胞の適応現象である過形成、化生を説明する コ：C-4-2)-② 国：総論VI-3-イ, ウ	〃
7	4月27日	細胞・組織の再生と修復	細胞の分裂周期と組織の再生、修復を説明する コ：C-4-2)-① 国：総論VI-3-エ	〃
8	4月27日	肉芽組織と創傷治癒	肉芽組織の構成要素、役割、および器質化、創傷治癒を説明する コ：C-4-2)-③,④ 国：総論VI-3-オ	〃
9	5月9日	物質代謝障害	脂質、タンパク質、糖質、血色素の代謝異常に基づく疾患を概説する コ：C-1-1)-⑤ 国：総論VI-2-ア	〃
10	5月9日	循環障害(I)	虚血、充血、鬱血の徴候、原因、転帰を説明する コ：C-4-3)-① 国：総論VI-4-イ	〃
11	5月11日	循環障害(II)	出血の原因、種類、転帰を説明する コ：C-4-3)-② 国：総論VI-4-イ	〃
12	5月11日	循環障害(III)	血栓症、塞栓症、梗塞を説明する コ：C-4-3)-③④⑤ 国：総論VI-4-ウ	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
13	5月18日	循環障害(Ⅳ)	水腫の原因とその転帰を説明する ショックと高血圧を説明する コ：C-4-3)-⑥⑦ 国：総論Ⅵ-4-ア	伊東 博司
14	5月18日	炎症(Ⅰ)	炎症の定義, 原因, 分類を説明する コ：C-4-4)-① 国：総論Ⅵ-5-ア, イ	〃
15	5月25日	炎症(Ⅱ)	急性炎症および慢性炎症での組織反応の特徴を説明する コ：C-4-4)-① 国：総論Ⅵ-5-オ	〃
16	5月25日	炎症(Ⅲ)	滲出性炎の各型を説明する コ：C-4-4)-③ 国：総論Ⅵ-5-オ	〃
17	6月1日	炎症(Ⅳ)	肉芽腫性炎の特徴と, その代表例を説明する コ：C-4-4)-④ 国：総論Ⅵ-5-カ	〃
18	6月1日	炎症(Ⅴ)	炎症反応に関わる細胞, 仲介物質を説明する コ：C-4-4)-② 国：総論Ⅵ-5-ウ	〃
19	6月8日	感染症	感染の成立機序と感染経路および各病原体によるおもな感染症について病理学的立場から概説する コ：C-4-4)-③, ④ 国：総論Ⅵ-6-ア, エ	〃
20	6月8日	免疫と病理	アレルギーと自己免疫疾患を説明する コ：C-3-2)-⑤⑥ 国：総論Ⅵ-6-カ, キ	〃
21	6月15日	遺伝と疾患, 奇形	遺伝の基本概念を述べた後, その異常によって生じる疾患の代表例を説明する 奇形について概説する コ：C-1-2)-⑤ 国：総論Ⅲ-1-エ, 必修14-ア-b	〃
22	6月15日	腫瘍(Ⅰ)	腫瘍の定義, 形態と基本構造を説明する コ：C-4-5)-①, ⑥ 国：総論Ⅵ-7-ア, エ	〃
23	6月22日	腫瘍(Ⅱ)	良性腫瘍と悪性腫瘍の生物学的性状を説明する コ：C-4-5)-③, ⑤ 国：総論Ⅵ-7-キ	〃
24	6月22日	腫瘍(Ⅲ)	上皮性腫瘍の特徴と分類について説明する コ：C-4-5)-④ 国：総論Ⅵ-7-オ	〃
25	6月29日	腫瘍(Ⅳ)	非上皮性腫瘍の特徴と分類について説明する コ：C-4-5)-④ 国：総論Ⅵ-7-オ	〃
26	6月29日	腫瘍(Ⅴ)	がんと遺伝子との関連について説明する コ：C-4-5)-② 国：総論Ⅵ-7-イ	〃
27	7月6日	歯の発育異常, 歯の機械的・化学的損傷	歯の発育異常(形, 大きさ, 位置, 萌出, 構造) 咬耗症, 磨耗症, 酸触症, 歯折, 脱臼について説明する コ：E-3-2)② 国：各論Ⅱ-3-ア～シ	〃
28	7月6日	歯の沈着物, 着色, 変色	沈着物としての歯垢・歯石, 歯牙の着色・変色の原因・種類について説明する コ：E-3-2)⑤ 国：総論Ⅵ-5-ウ	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
29	7月12日	齦蝕症(Ⅰ)	概論(定義), 疫学, 病因について述べる コ：E-3-2)① 国：総論Ⅵ-11-イ	遊佐 淳子
30	7月12日	齦蝕症(Ⅱ)	臨床所見に基づく分類, 各々の特徴(部位, 急性と慢性, 二次齦蝕)について説明する コ：E-3-2)① 国：総論Ⅵ-11-イ	〃
31	9月2日	齦蝕症(Ⅲ)	エナメル質初期齦蝕の組織学的特徴と再石灰化を説明する コ：E-3-2)① 国：総論Ⅵ-11-イ	〃
32	9月2日	齦蝕症(Ⅳ)	象牙質, セメント質各齦蝕病変の組織像を説明する コ：E-3-2)① 国：総論Ⅵ-11-イ	〃
33	9月9日	象牙質・セメント質の増生と吸収	第二・第三象牙質, 象牙質粒, セメント質粒, セメント質増殖症, 歯の外部吸収と内部吸収を説明する コ：E-3-2)② 国：総論Ⅵ-11-イ	櫻井 裕子
34	9月9日	歯髄の病変(Ⅰ)	加齢による変化, 種々の変性, 歯髄充血, 急性漿液性歯髄炎について説明する コ：E-3-2)② 国：総論Ⅵ-11-イ	〃
35	9月16日	歯髄の病変(Ⅱ)	化膿性歯髄炎(急性, 慢性)について説明する コ：E-3-2)③ 国：総論Ⅵ-11-イ, 各論Ⅳ-10-ア	〃
36	9月16日	歯髄の病変(Ⅲ)	潰瘍性歯髄炎, 増殖性歯髄炎について説明する コ：E-3-2)③ 国：総論Ⅵ-11-イ, 各論Ⅳ-10-ア	〃
37	9月23日	根尖部歯周組織の病変(Ⅰ)	根尖性歯周炎, 歯根肉芽腫, 歯根嚢胞について病理発生の面から互いの関連性を説明する コ：E-3-2)③ 国：総論Ⅵ-11-イ, 各論Ⅳ-10-ア	〃
38	9月23日	根尖部歯周組織の病変(Ⅱ)	歯槽膿瘍の継発症として骨髓炎, 頭頸部膿瘍および蜂窩織炎を説明する コ：E-3-2)③ 国：総論Ⅵ-11-イ, 各論Ⅳ-10-ア	〃
39	9月30日	辺縁部歯周組織の病変(Ⅰ)	歯周疾患の概念, 疫学, 病因について説明する コ：E-3-2)-④, E-2-4)-(5)⑨ 国：総論Ⅵ-11-イ, 各論Ⅳ-5-ソ	〃
40	9月30日	辺縁部歯周組織の病変(Ⅱ)	ブラーク性歯肉炎・慢性歯周炎の病理発生, 臨床像と病理組織像を詳説する コ：E-3-2)-④, E-2-4)-(5)⑨ 国：総論Ⅵ-11-イ, 各論Ⅳ-5-ソ	〃
41	10月7日	辺縁部歯周組織の病変(Ⅲ)	歯周ポケット発生のメカニズム種類, 意義, 外傷性咬合, 矯正治療に伴う組織変化を説明する コ：E-3-2)-④, E-2-4)-(5)⑨ 国：総論Ⅵ-11-イ, 各論Ⅳ-5-ソ	〃
42	10月7日	辺縁部歯周組織の病変(Ⅳ)	特殊な歯周疾患(非ブラーク性歯肉病変, 侵襲性歯周炎, 壊死性歯周疾患)について説明する コ：E-3-2)-④, E-2-4)-(5)⑨ 国：総論Ⅵ-11-イ, 各論Ⅳ-5-ソ	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
43	10月14日	辺縁部歯周組織の病変(V)	歯肉の増殖性病変(含エプーリス) について説明する コ：E-3-2)-(④, E-2-4)-(5)⑨ 国：総論VI-11-イ, 各論IV-5-ソ	櫻井 裕子
44	10月14日	口腔領域の嚢胞(I)	嚢胞の定義, 発生メカニズム, 分類を説明する コ：E-2-4)-(5)①②③ 国：総論VI-11-カ, 各論IV-4-エ, IV-10-ウカ	
45	10月21日	口腔領域の嚢胞(II)	歯源性嚢胞の臨床的特徴・病理組織学的特徴を概説する コ：E-2-4)-(5)①②③ 国：総論VI-11-カ, 各論IV-4-エ, IV-10-ウカ	〃
46	10月21日	口腔領域の嚢胞(III)	非歯源性嚢胞の臨床的特徴・病理組織学的特徴を概説する コ：E-2-4)-(5)①②③ 国：総論VI-11-カ, 各論IV-4-エ, IV-10-ウカ	〃
47	10月28日	口腔領域の腫瘍(I)	歯源性腫瘍の分類と各論(エナメル上皮腫, 角化嚢胞性歯源性腫瘍, 腺腫様歯源性腫瘍など)を概説する コ：E-2-4)-(5)⑤ 国：総論VI-11-キ, 各論IV-11-ア	〃
48	10月28日	口腔領域の腫瘍(II)	歯源性腫瘍各論(エナメル上皮線維腫, 歯牙腫, 非上皮性腫瘍, 悪性腫瘍など)と顎骨の腫瘍および腫瘍状病変について説明する コ：E-2-4)-(5)⑤ 国：総論VI-11-キ, 各論IV-11-ア	〃
49	11月4日	口腔領域の腫瘍(III)	非歯源性良性上皮性腫瘍を説明する コ：E-2-4)-(5)⑥ 国：総論VI-11-キ, 各論IV-11-ウエカ	〃
50	11月4日	口腔領域の腫瘍(IV)	非歯源性良性非上皮性腫瘍を説明する コ：E-2-4)-(5)⑥ 国：総論VI-11-キ, 各論IV-11-ウエカ	〃
51	11月11日	口腔領域の腫瘍(V)	非歯源性良性非上皮性腫瘍と非歯源性悪性非上皮性腫瘍を説明する コ：E-2-4)-(5)⑥ 国：総論VI-11-キ, 各論IV-11-ウエカ	〃
52	11月11日	口腔領域の腫瘍(VI)	非歯源性悪性非上皮性腫瘍の主要なものを説明する コ：E-2-4)-(5)⑥ 国：総論VI-11-キ, 各論IV-11-ウエカ	〃
53	11月18日	口腔粘膜の病変(I)	色素沈着, 感染症(細菌, 真菌, ウイルス)を概説する コ：E-2-4)-(5)⑩, E-2-4)-(4)①② 国：総論VI-7-ク, IV-11-ウ, 各論IV-5-セ, IV-6-オチテ, IV-12-セ	伊東 博司
54	11月18日	口腔粘膜の病変(II)	皮膚科的疾患, 自己免疫疾患の口腔粘膜発現について説明する コ：E-2-4)-(5)⑩, E-2-4)-(4)①② 国：総論VI-7-ク, IV-11-ウ, 各論IV-5-セ, IV-6-オチテ, IV-12-セ	

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
55	11月25日	唾液腺の非腫瘍性病変	化生, 唾石症, 非特異性唾液腺炎(細菌性, ウィルス性)シェーグレン症候群について説明する コ：E-2-4)-(5)⑩, E-2-4)-(4)①② 国：総論VI-7-ク, IV-11-ウ, 各論IV-5-セ, IV-6-オチテ, IV-12-セ	伊東 博司
56	11月25日	唾液腺腫瘍	良性腫瘍(多形性腺腫, 筋上皮腫, ワルシン腫瘍), 悪性腫瘍(粘表皮癌, 腺様?胞癌, 腺房細胞癌)について概説する コ：E-2-4)-(7)②③ 国：総論VI-11-エ, 各論IV-12-カタチ	
57	12月2日	顎骨の非腫瘍性病変 口腔領域の発育異常	顎骨骨髓炎, 遺伝性顎骨疾患, 原因不明の顎骨病変, 口腔領域の発育異常について説明する コ：E-2-4)-(3)⑦ 国：総論VI-11-アオ, 各論IV-1-ア, IV-9-オ	〃
58	12月9日	歯周病と全身疾患	辺縁性歯周炎と肝炎, 糖尿病などとの関わりについて説明する	
59			コ：E-3-3)-(3)① 国：各論Ⅲ-8-コ	
60				高田 隆

口腔病理学実習

科目責任者：伊東 博司
担当教員：伊東 博司，遊佐 淳子，櫻井 裕子

1. 科目の概要

人体の病巣から作製された病理組織標本を顕微鏡で観察することにより，講義で説明された病変がどのような病理組織像を示すかを学んでいく。この実習の前半では病理学総論で学んだ各病変を諸臓器において観察し，その組織像を理解する。それをもとに後半では，顎口腔領域の病変を観察し，他臓器での病変との共通性や特異性を検討する。実習に際しては顕微鏡観察を行うだけでなく，顕微鏡像のスケッチを主体とした，実習レポートを各学生に課す。これにより各自の理解度を高めると同時に，病変を的確に把握しているかどうかを判定する。

2. 一般目標

顎口腔領域の病変を的確に診断できるようになるために，諸病変の病理組織像を理解し，かつ，それを説明できる能力を習得することを目標とする。

3. 到達目標

- 1) 病変の組織像を正確にスケッチすることができる。
- 2) スケッチと文により，病理組織像を説明することができる。
- 3) 病変の組織像を観察して，その病変の病理組織診断名を述べるることができる。

4. 講義形態

病理組織標本を顕微鏡で観察したのち，観察した組織像のスケッチと説明文を書いた実習レポートを作製する。

5. 時間外学習

- 予習：第2学年で講義された口腔組織学の事項で，各回実習に関連するものを再確認する。(10分)
各回実習に関連する，口腔病理学講義の事項を再確認する。(10分)
予習レポートを作製する。(90分)
- 復習：各回実習の内容を実習レポート，教科書，参考書で復習する。(60分)
その他：復習しても理解できないことはオフィスアワーで質問する。(30分)

6. 評価方法

実習試験（70%），小テスト（20%）および提出した予習レポートの評価（10%）により評価する。

7. 教科書

- 坂本穆彦ら 編「標準病理学」第4版 医学書院 2010年
高田 隆ら 編「口腔病理アトラス」第2版 文光堂 2006年

8. 参考書

- 小池盛雄ら 編「組織病理アトラス」第6版 文光堂 2015年
下野正基ら 編「新口腔病理学」第1版 医歯薬出版 2008年

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：)，出題基準記号(国：)	
1	9月1日	変性	脂肪変性，硝子変性	伊東 博司 遊佐 淳子 櫻井 裕子
			コ：C-4-1)-① 国：総論VI-2-ア	
2	9月8日	壊死，組織の増殖	凝固壊死，融解壊死，肉芽組織	〃
			コ：C-4-1)-②, C-4-2)-③ 国：総論VI-2-ウ, VI-3-オ	

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：)，出題基準記号(国：)	
3	9月15日	循環障害	出血，うっ血，水腫，梗塞	伊東 博司 遊佐 淳子 櫻井 裕子
			コ：C-4-3)-①～⑦ 国：総論VI-4-ア, ウ	
4	9月29日	炎症(1)，感染症	化膿性炎，感染症(小テスト)	〃
			コ：C-4-4)-①～③ 国：総論VI-5-ア～オ, VI-6-エ	
5	10月6日	炎症(2)，免疫異常	肉芽腫性炎，橋本病，結節性多発動脈炎	〃
			コ：C-4-4)-④, C-3-2)-⑤⑥ 国：総論VI-5-カ, VI-6-カキ	
6	10月13日	腫瘍	良性腫瘍，悪性腫瘍，上皮性腫瘍，非上皮性腫瘍	〃
			コ：C-4-5)-①～⑤ 国：総論VI-7-アエ～キ	
7	10月20日	齲蝕	エナメル質齲蝕，象牙質齲蝕(小テスト)	〃
			コ：E-3-2)① 国：総論VI-11-イ	
8	10月27日	歯髄炎，根尖性歯周炎	化膿性歯髄炎，潰瘍性歯髄炎，歯根嚢胞	〃
			コ：E-3-2)③ 国：総論VI-11-イ, 各論IV-10-ア	
9	11月10日	歯周病，エプーリス	ブラーク単独性歯肉炎，慢性歯周炎，エプーリス	〃
			コ：E-3-2)-④, E-2-4)-⑤⑨ 国：総論VI-11-イ, 各論IV-5-ソ	
10	11月17日	嚢胞	含歯性嚢胞，鼻口蓋管嚢胞，類表皮嚢胞	〃
			コ：E-2-4)-⑤①②③ 国：総論VI-11-カ, 各論IV-4-エ, IV-10-ウカ	
11	11月24日	歯源性腫瘍(1)	角化嚢胞性歯源性腫瘍，腺腫様歯源性腫瘍(小テスト)	〃
			コ：E-2-4)-⑤⑤ 国：総論VI-11-キ, 各論IV-11-ア	
12	12月1日	歯源性腫瘍(2)	濾胞型エナメル上皮腫，網状型エナメル上皮腫，エナメル上皮線維腫	〃
			コ：E-2-4)-⑤⑤ 国：総論VI-11-キ, 各論IV-11-ア	
13	12月8日	非歯源性腫瘍	骨形成線維腫，乳頭腫，扁平上皮癌	〃
			コ：E-2-4)-⑤⑥ 国：総論VI-11-キ, 各論IV-11-ウエカ	
14	12月15日	粘膜疾患，唾液腺疾患(1)	白板症(過形成上皮，異型上皮)，扁平苔癬，天疱瘡，粘液瘤	〃
			コ：E-2-4)-⑤⑩, E-2-4)-④①② 国：総論VI-7-ク, VI-11-ウ, 各論IV-5-セ, IV-6-オチテ, IV-12-セ	
15	12月22日	唾液腺疾患(2)	慢性硬化性唾液腺炎，多形腺腫，腺様嚢胞癌(小テスト)	〃
			コ：E-2-4)-⑦②③ 国：総論VI-11-エ, 各論IV-12-カタチ	

口腔感染免疫学Ⅱ

科目責任者：清浦 有祐

担当教員：清浦 有祐, 玉井利代子

1. 科目の概要

ウイルス, 細菌, 真菌, 原虫などの微生物の感染に対してヒトは免疫応答と呼ばれる宿主反応を起こすことで, 微生物を排除する。この免疫応答に関しては, それを担う白血球の様々な働きや抗体, 補体や抗菌物質の作用が分子レベルで解明されている。この生体防御のメカニズムとその予防方法であるワクチンや血清療法についても詳しく説明する。さらに, 歯科の二大疾患である齲蝕と歯周病の原因菌の特性と病原性を発揮するメカニズムについて分子レベルで解説する。

2. 一般目標

- 1) 微生物感染に対するヒトの免疫応答を理解する。
- 2) 免疫応答に関係する細胞性因子を理解する。
- 3) 免疫応答に関する液性因子を理解する。
- 4) 齲蝕と歯周病の原因菌を理解する。
- 5) 齲蝕と歯周病が起こるメカニズムを理解する。

3. 到達目標

- 1) 微生物感染に対するヒトの免疫応答を説明する。
- 2) 免疫応答に関係する細胞性因子を説明する。
- 3) 免疫応答に関係する液性因子を説明する。
- 4) 齲蝕と歯周病の原因菌を説明する。
- 5) 齲蝕と歯周病が起こるメカニズムを説明する。

4. 講義形態

講義室内での担当教員による教科書及び講義プリントを中心とした講義が基本である。講義中に頻繁に学生に質問することで, 双方向性の講義になるように努める。

5. 時間外学習

- 予習：毎回の講義ごとに次回の講義内容を伝えるので, 該当箇所の教科書を読んでおくこと。(10分)
- 復習：毎回の講義終了後に, 記載したノートを読み直し, 不完全な部分があれば教科書で補充する。(90分)

その他：

6. 評価方法

定期試験の成績 (70%), 講義時間内の試験の成績 (20%), 出席および授業態度・貢献度 (10%) によって評価する。

7. 教科書

口腔微生物学—感染と免疫— 第5版 学建書院 2015年 講義・実習解説書 教室作成 2016年

8. 参考書

戸田新細菌学 第34版 南山堂 2013年

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
1	4月6日	感染免疫学概論	ヒトの感染防御メカニズム コ：C-3-2)-①, ②, ③ 国：総論Ⅲ-3-ア～エ	清浦 有祐
2	4月6日	免疫担当細胞	免疫担当細胞の種類 コ：C-3-2)-③ 国：総論Ⅲ-3-ア	〃
3	4月13日	顆粒球	顆粒球の機能 コ：C-3-2)-③ 国：総論Ⅲ-3-ア	〃
4	4月13日	T細胞	T細胞の機能 コ：C-3-2)-③ 国：総論Ⅲ-3-ア	〃
5	4月20日	B細胞	B細胞の機能 コ：C-3-2)-③ 国：総論Ⅲ-3-ア	〃
6	4月20日	抗原提示細胞	抗原提示細胞の機能 コ：C-3-2)-② 国：総論Ⅲ-3-エ	〃
7	4月27日	サイトカインⅠ	サイトカインの種類 コ：C-3-2)-①, ②, ③ 国：総論Ⅲ-3-ウ, エ	〃
8	4月27日	サイトカインⅡ	サイトカインの機能 コ：C-3-2)-①, ②, ③ 国：総論Ⅲ-3-ウ, エ	玉井利代子
9	5月9日	サイトカインⅢ	サイトカインの病態への影響 コ：C-3-2)-①, ②, ③ 国：総論Ⅲ-3-ウ, エ	清浦 有祐
10	5月9日	アレルギーⅠ	アレルギーの種類 コ：C-3-2)-⑤, ⑥ 国：総論Ⅵ-6-キ	〃
11	5月11日	アレルギーⅡ	アレルギーの発症メカニズム コ：C-3-2)-⑤, ⑥ 国：総論Ⅵ-6-キ	〃
12	5月11日	自己免疫疾患	自己免疫疾患の発症メカニズムとその種類 コ：C-3-2)-④, ⑥ 国：総論Ⅵ-6-カ	〃
13	5月18日	免疫寛容	免疫寛容のメカニズム コ：C-3-2)-④ 国：総論Ⅲ-3-イ	〃
14	5月18日	ワクチンⅠ	ワクチンの種類 コ：C-3-2)-⑤, ⑥ 国：総論Ⅵ-6-キ	〃
15	5月25日	ワクチンⅡ	ワクチンの役割 コ：C-3-2)-⑤, ⑥ 国：総論Ⅵ-6-キ	〃
16	5月25日	口腔微生物学概論	口腔微生物の特性とその種類 コ：C-3-1)-① 国：必修-エ-a	玉井利代子
17	6月1日	口腔細菌	口腔内の常在細菌の種類 コ：C-3-1)-① 国：必修-エ-a	清浦 有祐
18	6月1日	齲蝕病原性細菌1	齲蝕の原因菌とその種類 コ：C-3-1)-① 国：各論Ⅰ-1-ア	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
19	6月8日	齧蝕病原性細菌2	齧蝕の発症メカニズム コ：C-3-1)-② 国：各論Ⅰ-1-ア	清浦 有祐
20	6月8日	歯周病原性細菌1	歯周病原性細菌の種類 コ：C-3-1)-① 国：各論Ⅰ-2-ア	〃
21	6月15日	歯周病原性細菌2	歯周病原性細菌の病原性 コ：C-3-1)-② 国：各論Ⅰ-2-ア	〃
22	6月15日	歯周病原性細菌3	歯周病原性細菌に対する免疫応答 コ：C-3-1)-② 国：各論Ⅰ-2-ア	〃
23	6月22日	口腔内の真菌	口腔の真菌の種類とその特性 コ：C-3-1)-①, ② 国：総論Ⅵ-6-イ	〃
24	6月22日	口腔内のウイルス1	口腔内のウイルスの種類 コ：C-3-1)-① 国：総論Ⅵ-6-イ	〃
25	6月29日	口腔内のウイルス2	口腔内のウイルスの病原性 コ：C-3-1)-② 国：総論Ⅵ-6-イ	〃
26	6月29日	肝炎ウイルス1	肝炎ウイルスの種類 コ：C-3-1)-① 国：総論Ⅵ-6-イ	玉井利代子
27	7月6日	肝炎ウイルス2	肝炎ウイルスの病原性 コ：C-3-1)-①, ② 国：総論Ⅵ-6-イ	清浦 有祐
28	7月6日	HIV1	HIVの特性とその病原性 コ：C-3-1)-①, ② 国：総論Ⅵ-6-イ	〃
29	7月13日	HIV2	AIDSの発症メカニズム コ：C-3-1)-①, ② 国：総論Ⅵ-6-イ	〃
30	7月13日	薬剤耐性菌	抗菌薬に対する細菌の耐性メカニズム コ：C-3-1)-①, ②, ④ 国：総論Ⅵ-6-イ	〃

口腔感染免疫学実習

科目責任者：清浦 有祐

担当教員：清浦 有祐，玉井利代子，小林美智代

1. 科目の概要

口腔感染免疫学の講義内容を実際に自分で確認してその理解を深めることで，歯科医師として日常に応用できる感染免疫学の知識とその手技を習得するためにを行う。

2. 一般目標

- 1) 細菌と真菌の取扱いに関する手技を習得する。
- 2) 細菌と真菌の基本的な形態を理解する。
- 3) 薬剤の細菌への効果を知ること，化学療法の原理を確認する。
- 4) 齲蝕と歯周病の原因菌の性状を実際に調べて理解する。
- 5) ヒトの生体防御のメカニズムを理解する。

3. 到達目標

- 1) 細菌と真菌の取扱いに関する手技を行う。
- 2) 細菌と真菌の基本的な形態を説明する。
- 3) 薬剤の細菌への効果を知ること化学療法の原理を説明する。
- 4) 齲蝕と歯周病の原因菌の最上を実際に調べて説明する。
- 5) ヒトの生体防御のメカニズムを説明する。

4. 講義形態

実習室内で自分自身で細菌や真菌を取扱うことで，微生物の特性とその病原性を理解すると共に，その取扱い手法を習得していく。実習内容はレポートにして提出する。

5. 時間外学習

予習：毎回の実習ごとに次回の実習内容を伝えるので，該当部分の教科書読んでおくこと。(10分)

復習：当日の実習内容を，レポートを記載しながら復習する。(90分)

その他：

6. 評価方法

筆記・実技試験の成績（70%），提出レポート（20%），出席および授業態度・貢献度（10%）により評価する。

7. 教科書

口腔微生物学－感染と免疫－ 第5版 学建書院 2015年

講義・実習解説書 教室作成 2016年

8. 参考書

戸田新細菌学 第34版 南山堂 2013年

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：)，出題基準記号(国：)	
1	4月7日	オリエンテーション	感染免疫学実習の特色とその注意点 コ：C-3-1)-①, ② 国：総論VI-6-イ	清浦 有祐 玉井利代子 小林美智代
2	4月14日	グラム染色	細菌のグラム染色と顕微鏡観察 コ：C-3-1)-①, ② 国：必修11-ウ-e	〃
3	4月21日	細菌コロニーの観察	細菌コロニーの観察とグラム染色 コ：C-3-1)-①, ② 国：必修11-ウ-e	〃
4	4月28日	特殊染色	特殊染色による細菌の染色 コ：C-3-1)-①, ② 国：必修11-ウ-e	〃
5	5月12日	消毒と無菌試験	各種消毒薬の消毒効果 コ：C-3-1)-③ 国：必修15-ク-a	〃
6	5月19日	抗菌薬感受性試験	各種抗菌薬に対する細菌の感受性 コ：C-3-1)-④ 国：総論X-9-ス	〃
7	5月26日	実習筆記試験	実習内容に関する筆記試験	〃
8	6月2日	歯垢細菌	歯垢中細菌のグラム染色 コ：C-3-1)-①, ② 国：必修6-エ-a	〃
9	6月6日	齲蝕細菌	齲蝕原性細菌のグラム染色とその性状 コ：C-3-1)-①, ② 国：各論I-1-ア	〃
10	6月9日	歯周病原性細菌	歯周病原性細菌のグラム染色 コ：C-3-1)-①, ② 国：各論I-2-ア	〃
11	6月16日	<i>Candida</i> の性状	<i>Candida</i> のグラム染色 コ：C-3-1)-①, ② 国：総論VI-6-イ	〃
12	6月23日	抗原抗体反応	ゲル拡散法による沈降反応 コ：C-3-2)-② 国：総論III-3-エ	〃
13	6月30日	口腔微生物のまとめ	口腔微生物の総括 コ：C-3-1), 2) 国：必修6-エ-a	〃
14	7月7日	実習実技試験	グラム染色に関する実技試験	〃
15	7月14日	実習筆記試験	実習内容に関する筆記試験	〃

歯科薬理学Ⅱ

科目責任者：鈴木 恵子
担当教員：鈴木 恵子，鈴木 礼子

1. 科目の概要

歯科薬理学の学習目標は、歯科臨床において適切な処方ができるようになることと、患者が他科で処方された薬についても十分に理解できる知識を習得することである。このためには、薬物の作用機序に主体をおく基礎薬理学に加えて、疾患に対する薬物治療を科学的に考究する臨床薬理学の知識も重要である。また、個々の薬物の適応症についても熟知しておく必要がある。本科目では、薬物を生体に投与したときの薬物動態（生体が薬物に及ぼす作用）と薬力学（薬物が生体に及ぼす作用）を理解したうえで臨床薬理学について学ぶ。特に歯科医療で重要な薬物（局所麻酔薬、鎮痛薬、抗炎症薬、抗菌薬、消毒薬、歯科専用薬物）には重点をおいて教授する。

2. 一般目標

歯科医療現場で安全かつ適切に薬物を使用するため、歯科医師が最低限知っていなければいけない他科処方薬について習得する（一般薬理学）とともに、歯科医療現場で特に使用頻度の高い薬物（局所麻酔薬、鎮痛薬、抗炎症薬、唾液腺作用薬、抗菌薬、消毒薬、歯科専用薬物）についての専門的知識を習得する（歯科領域の薬理学）。

3. 到達目標

- 1）代表的な全身麻酔薬、催眠薬、中枢神経疾患治療薬を挙げ、薬理作用、作用機序について説明できる。
- 2）自律神経（交感神経、副交感神経）、運動神経に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、作用機序について説明できる。
- 3）知覚神経に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、作用機序について説明できる。
- 4）代表的なオータコイドを挙げ、生理機能と疾患について説明できる。
- 5）代表的な抗炎症薬、鎮痛薬（解熱性鎮痛薬、麻薬性鎮痛薬）を挙げ、薬理作用、作用機序について説明できる。
- 6）代表的な止血薬、凝固薬を挙げ、薬理作用、作用機序について説明できる。
- 7）代表的な抗感染症薬、抗悪性腫瘍薬を挙げ、薬理作用、作用機序、主な副作用について説明できる。
- 8）代表的な防腐薬、消毒薬、歯科治療薬を挙げ、薬理作用、作用機序について説明できる。
- 9）代表的な循環器系、呼吸器系、消化器系治療薬を挙げ、薬理作用、作用機序について説明できる。

4. 講義形態

理解を深めるために講義プリントを適宜配布する。講義はスライドを中心に行うので、ノートにスライドの要点や、口頭説明内容をきちんと記録する。不明な箇所は、講義中あるいは終了時に質問し、出来るだけ時間内で解決する。

5. 時間外学習

- 予習：シラバスに従って、講義内容に関連する基礎知識（既に他科目で学習した事項）を確認する。（30分）
- 復習：自らの疑問点が解決されたかどうか、あるいは教員が提示した課題が解けるかどうか吟味する。（60分）
- その他：復習時に生じた疑問は、速やかに教員に質問する。

6. 評価方法

一般薬理学（50点）＋歯科領域の薬理学（50点）、計100点満点で評価する。内訳として、一般薬理学は、定期試験（70％）、小試験（30％：3回の小試験の合計）により評価し、歯科領域の薬理学は、

講義時間中に行う2回の試験（各回50％ずつ）により評価する。必要な場合には、再試験を実施する。

7. 教科書

なし（適宜、講義プリントを配布する）

8. 参考書

- 野村隆英 他 編 「シンプル薬理学」改訂第5版 南江堂 2014
- 石田 甫 他 編 「歯科薬理学」第5版 医歯薬出版 2010
- 加藤有三 他 編 「現代歯科薬理学」第5版 医歯薬出版 2012
- 坂上 宏 他 編 「解る！歯科薬理学」第2版 学建書院 2009

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：)，出題基準記号(国：)	
1	4月11日	一般薬理学1 ：中枢神経作用薬①	全身麻酔薬と麻酔前投薬の分類・特徴・作用機序 コ：C-2-3)-(5)-④ 国：総論X-6-エ，総論X-9-オ	鈴木 恵子
2	4月11日	一般薬理学2 ：中枢神経作用薬②	催眠・鎮静薬，抗精神病薬，抗うつ薬の薬理作用・作用機序・副作用 コ：C-2-3)-(5)-④ 国：総論X-9-オ	〃
3	4月11日	一般薬理学3 ：中枢神経作用薬③	抗てんかん薬，中枢神経変性疾患治療薬の薬理作用・作用機序・副作用 コ：C-2-3)-(5)-④ 国：総論X-9-オ	〃
4	4月11日	一般薬理学4 ：末梢神経作用薬①	交感神経作用薬と拮抗薬の薬理作用と受容体，適応症 コ：C-2-3)-(5)-③ 国：総論X-9-オ	〃
5	4月18日	一般薬理学5 ：末梢神経作用薬②	副交感神経作用薬と拮抗薬の薬理作用と受容体，適応症 コ：C-2-3)-(5)-③ 国：総論X-9-オ	〃
6	4月18日	一般薬理学6 ：末梢神経作用薬③	神経筋接合部作用薬，筋弛緩薬の薬理作用と受容体，適応症 コ：C-2-3)-(2)-④ 国：総論X-6-オ，総論X-9-オ	〃
7	4月25日	一般薬理学 ：小試験	小試験①(一般薬理学1～6)とフィードバック	〃
8	4月25日	一般薬理学7 ：循環器作用薬・腎臓作用薬	心血管系治療薬の薬理作用・作用機序・適応症 コ：C-2-3)-(3)-④ 国：総論X-9-オ	〃
9	5月9日	一般薬理学8 ：呼吸器作用薬・消化器作用薬	呼吸器・消化器治療薬の薬理作用・作用機序・適応症 コ：C-2-3)-(6)-①，(7)-② 国：総論X-9-オ	〃
10	5月9日	一般薬理学9 ：止血薬・抗血栓薬	血液凝固 - 線溶系の理解，止血薬・抗血栓薬の分類と作用機序・副作用・適応症 コ：C-2-3)-(11)-④ 国：総論X-9-タ	〃
11	5月16日	一般薬理学10 ：抗腫瘍薬・代謝改善薬・ビタミン	抗腫瘍薬の分類と作用機序，血糖・脂質・骨代謝異常治療薬の分類・作用機序，ビタミン製剤の適応症と過剰症 コ：C-3-1)-④ 国：総論X-9-セ，ソ	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
12	5月16日	一般薬理学：小試験	小試験②(一般薬理学7～10)とフィードバック, 問題演習①(一般薬理学1～10)	鈴木 恵子
13	5月23日	歯科領域の薬理学1：局所麻酔薬①	局所麻酔薬の分類, 適用方法, 作用機序, 作用に影響する因子 コ：E-1-3)-(3)-①～⑥ 国：必修15-コ-a, 総論X-6-イ	鈴木 礼子
14	5月23日	歯科領域の薬理学2：局所麻酔薬②	局所麻酔薬の副作用と中毒, 主な局所麻酔薬の特徴, 末梢血管収縮薬との併用効果 コ：E-1-3)-(3)-①～⑥ 国：必修15-コ-a, 総論X-6-イ	〃
15	5月30日	歯科領域の薬理学3：鎮痛薬①	痛みの伝導路, オピオイド受容体 コ：C-4-6)-②, ③, C-5-2)-③ 国：総論X-9-サ	〃
16	5月30日	歯科領域の薬理学4：鎮痛薬②	鎮痛薬の分類, 作用機序, 適応, 副作用 コ：C-4-6)-②, ③, C-5-2)-③, C-5-4)-① 国：総論X-9-サ	〃
17	6月6日	歯科領域の薬理学5：抗炎症薬①	炎症の定義と発症機序, ステロイド性抗炎症薬の適応・副作用 コ：C-4-4)-①, C-5-2)-③, C-5-4)-①, E-2-4)- (3)-⑥ 国：総論X-9-シ	〃
18	6月6日	歯科領域の薬理学6：抗炎症薬②	非ステロイド性抗炎症薬の適応・副作用・薬物相互作用, その他, 広義の抗炎症薬(消炎酵素薬・抗ヒスタミン薬・抗リウマチ薬・痛風治療薬・抗アレルギー薬) コ：C-5-2)-③, C-5-4)-①, E-2-4)- (3)-⑥ 国：総論X-9-シ	〃
19	6月13日	歯科領域の薬理学の試験<1>	歯科領域の薬理学1～6の試験	〃
20	6月13日	歯科領域の薬理学7：唾液腺作用薬	唾液腺作用薬の分類, 作用機序, 口腔乾燥症治療薬 コ：C-5-2)-③, C-5-4)-① 国：必修9-エ, 必修14-イ-q	〃
21	6月13日	歯科領域の薬理学8：抗菌薬①	化学療法の概念, 抗菌薬の作用機序・分類 コ：C-3-1)-④ 国：総論X-9-ス	〃
22	6月13日	歯科領域の薬理学9：抗菌薬②	主な抗菌薬の特徴・副作用, 併用薬との薬物相互作用 コ：C-3-1)-④, C-5-4)-① 国：必修9-エ, 総論X-9-ス	〃
23	6月20日	歯科領域の薬理学10：抗真菌薬・抗ウイルス薬	抗真菌薬の分類・作用機序・副作用, 抗ウイルス薬の分類・作用機序・副作用 コ：C-3-1)-④, C-5-4)-① 国：総論X-9-ス	〃
24	6月20日	歯科領域の薬理学11：消毒薬	消毒薬の分類・適応, 消毒効果に影響を及ぼす要因 コ：C-3-1)-③ 国：必修15-ク-a, 総論X-9-ス	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
25	6月27日	歯科領域の薬理学12：歯科専用薬物	腐食薬および収斂薬, 歯・歯髄疾患と薬 コ：E-3-3)-(1)-⑨, E-3-3)-(2)-①, E-3-3)-(4)-① 国：総論X-9-チ	鈴木 礼子
26	6月27日	歯科領域の薬理学13：歯科領域における薬物療法	歯科領域の神経疾患・歯性感染症・口腔粘膜疾患・顎関節症の治療薬 コ：E-2-4)- (8)-①, ③ 国：各論IV-13-セ	〃
27	7月4日	歯科領域の薬理学の試験<2>	歯科領域の薬理学7～13の試験	〃
28	7月4日	歯科領域の薬理学14：まとめ	歯科領域の薬理学の総まとめ	〃
29	7月11日	一般薬理学：まとめ	問題演習②(一般薬理学1～10)とフィードバック	鈴木 恵子
30	7月11日	一般薬理学：小試験	小試験③(一般薬理学1～10)とフィードバック	〃

歯科薬理学実習

科目責任者：鈴木 恵子

担当教員：鈴木 恵子，鈴木 礼子，長岡 正博，沼倉 博人（非常勤講師）

1. 科目の概要

歯科薬理学Ⅰおよび歯科薬理学Ⅱの講義で学んだ知識を，自分の体験を通して確実にすることを目標とした実習である。具体的には，動物愛護の精神を遵守した上での小動物を用いた動物実験に加えて，動物実験の代替法としてのコンピュータシミュレーション実習や，問題解決型学習・チーム基盤型学習などの手法を取り入れた総合的な実習を行う。

2. 一般目標

歯科薬理学Ⅰおよび歯科薬理学Ⅱの講義で学んだ知識を統合して活用できるようになるために，自ら実習課題に取り組む過程を通じて，生体に対する生物学的思考を涵養する。

3. 到達目標

- 1) 動物愛護の精神（3つのR）を理解し，実践できる。
- 2) 薬物動態（吸収・分布・代謝・排泄）について説明できる。
- 3) 骨格筋に作用する薬物について説明できる。
- 4) 腸管平滑筋に作用する薬物について説明できる。
- 5) 循環器に作用する薬物について説明できる。
- 6) 歯科診療において適切な処方をするために必要な情報を列举できる。
- 7) 処方例について科学的な根拠に基づいた説明ができる。
- 8) 適切な服薬指導ができる。

4. 講義形態

動物愛護の精神を遵守した上での小動物を用いた動物実験に加えて，動物実験の代替法としてコンピュータシミュレーション実習や，問題解決型学習・チーム基盤型学習などの手法を取り入れた総合的な実習を行う。

5. 時間外学習

予習：実習で使用する薬物の薬理作用および作用機序をノートにまとめる。（30分）

復習：実習で生じた疑問点を参考書や講義資料，ノート等を読み返し学習することで理解を深める。（30分）

その他：復習で不明な点は，速やかに教員に質問し，知識の整理に努める。

6. 評価方法

2回実施する実習試験（各50％）により評価する。実習試験を受験するための必要条件は，実習のステップ毎に設けてある検印箇所全ての全てに教員の検印を受けていること，及びシミュレーション試験をクリアしていることである。

7. 教科書

なし（適宜，実習プリントを配布する）

8. 参考書

野村隆英 他 編 「シンプル薬理学」改訂第5版 南江堂 2014

石田 甫 他 編 「歯科薬理学」第5版 医歯薬出版 2010

加藤有三 他 編 「現代歯科薬理学」第5版 医歯薬出版 2012

坂上 宏 他 編 「解る！歯科薬理学」第2版 学建書院 2009

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：)，出題基準記号(国：)	
1	4月8日	オリエンテーション	動物愛護の精神(3つのR)，薬物の用量，薬液の濃度・容量 コ：A-2-② 国：必修1-ア-b，総論X-9-テ	鈴木 恵子 鈴木 礼子 長岡 正博
2	4月15日	薬物動態1	薬物動態(吸収・分布・代謝・排泄) コ：C-5-3)-② 国：必修15-ヒ-c，総論X-9-ウ	〃
3	4月22日	薬物動態2	薬物動態(吸収・分布・代謝・排泄) コ：C-5-3)-② 国：必修15-ヒ-c，総論X-9-ウ	〃
4	5月6日	神経筋接合部に作用する薬物	筋弛緩薬の作用機序と併用薬の影響 コ：C-5-2)-③, ⑥ 国：必修15-ヒ-e, h，総論X-6-オ	〃
5	5月13日	自律神経系に作用する薬物Ⅰ	腸管平滑筋に作用する薬物と遮断薬の効果 コ：C-5-2)-③, ⑥ 国：必修15-ヒ-e, h	〃
6	5月20日	実習試験1	実習内容に関する筆記試験と解説	〃
7	5月23日	PBL 1	歯科診療における処方の実際(グループ討議) コ：A-6-1)-①, ②, E-1-1)-⑩ 国：必修15-ヒ-j，総論X-9-ク, コ	〃
8	5月27日	PBL 2	歯科診療における処方の実際(グループ討議) コ：A-6-1)-①, ②, E-1-1)-⑩ 国：必修15-ヒ-j，総論X-9-ク, コ	〃
9	6月3日	PBL 3	歯科診療における処方の実際(発表) コ：A-6-1)-①, ②, E-1-1)-⑩ 国：必修15-ヒ-j，総論X-9-ク, コ	〃
10	6月10日	自律神経系に作用する薬物Ⅱ-1	循環器に作用する薬物と遮断薬の効果① コ：C-5-2)-③, ⑥ 国：必修15-ヒ-e, h，総論X-9-オ	鈴木 恵子 鈴木 礼子 長岡 正博 沼倉 博人
11	6月17日	自律神経系に作用する薬物Ⅱ-2	循環器に作用する薬物と遮断薬の効果② コ：C-5-2)-③, ⑥ 国：必修15-ヒ-e, h，総論X-9-オ	〃
12	6月24日	自律神経系に作用する薬物Ⅱ-3	循環器に作用する薬物と遮断薬の効果③ コ：C-5-2)-③, ⑥ 国：必修15-ヒ-e, h，総論X-9-オ	〃
13	7月1日	自律神経系に作用する薬物Ⅱ-4	循環器に作用する薬物と遮断薬の効果④ コ：C-5-2)-③, ⑥ 国：必修15-ヒ-e, h，総論X-9-オ	〃
14	7月8日	シミュレーション試験	シミュレーションを用いた実習内容に関する試験(未知検体を類推する試験)	鈴木 恵子 鈴木 礼子 長岡 正博
15	7月15日	実習試験2	実習内容に関する筆記試験と解説	〃

生体材料・歯科材料学Ⅱ

科目責任者：岡田 英俊

担当教員：岡田 英俊、石田 喜紀、覚本 嘉美（非常勤講師）

1. 科目の概要

歯科材料には金属材料、無機材料、有機材料、およびこれらを複合した材料があり、印象用、模型用、義歯床用など多様な形で応用されている。これらの材料の性質は取り扱う人の技術の巧拙で大きく変化する。生体材料・歯科材料学は、これらの材料の成り立ちの基礎的な理論や特性および実際の取り扱い技術を学習する科目である。総論で物理学、化学、および生物学などの基礎的学力をもとに種々の歯科材料の特徴を学ぶ。各論では臨床で使用される材料であることを踏まえて、材料毎に所要性質、構成成分、その役割、物理化学的および機械的性質などを理解するとともに、それらの取り扱い法について学ぶ。

2. 一般目標

生体材料・歯科材料の組成、特性を学びその正しい使用法を理解する。

3. 到達目標

- 1）歯科修復物を構成する各種の生体材料を説明できる。
- 2）成形加工に用いる歯科材料と器具の特性および使用法について説明できる。
- 3）さまざまな症例に適応した歯科材料や器具が選定できる。

4. 講義形態

要点はプロジェクターを活用し、視覚素材を多用することで極力図案として記憶出来るようにする。また、学生は板書の内容、教科書およびレジュメの書き込みを行い理解を深める。双方向の講義に留意して疑問点を聞き出す。

5. 時間外学習

- 予習：次の講義内容についてレポートを作製し提出する。(60分)
- 復習：講義終了後にノート、教科書、参考資料の該当する部分を改めて熟読する。(30分)
- その他：

6. 評価方法

比率を定期試験、追・再試験の結果（90%）、受講態度（レポートの提出を含む：10%）として評価する。なお、全出席については10%を加点する。

7. 教科書

榎本貢三 他 「スタンダード歯科理工学第5版」 学建書院 2014年

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
1	4月5日	歯科精密鑄造(1)	歯科用ワックスの成分、特性および使用法 コ：D-2-⑤ 国：総論XI-6-ア～ウ	岡田 英俊
2	4月5日	歯科精密鑄造(2)	埋没材の種類、性質、役割および操作法 コ：D-2-⑥ 国：総論XI-12-イ, ウ	〃
3	4月12日	歯科精密鑄造(3)	歯科精密鑄造の基礎理論 コ：D-2-⑥ 国：総論XI-12-ア, エ	〃
4	4月12日	歯科精密鑄造(4)	歯科精密鑄造の工程と器械 コ：D-2-⑥ 国：総論XI-12-ア	〃
5	4月18日	歯科精密鑄造(5)	鑄造体の製作工程－埋没法、鑄造法 コ：D-2-⑥ 国：総論XI-12-ア	〃
6	4月18日	歯科精密鑄造(6)	鑄造欠陥の成因とその対策 コ：D-2-⑥ 国：総論XI-12-オ	〃
7	4月19日	歯科用金属材料(1)	歯科用貴金属合金の種類と特性 コ：D-1-① 国：総論XI-8-キ～コ, 9-キ, ク	〃
8	4月19日	歯科用金属材料(2)	歯科用非貴金属合金の種類と特性 コ：D-1-① 国：総論XI-8-サ, 9-ケ～シ, 15-ア	〃
9	4月26日	歯科用金属材料(3)	軟化熱処理と硬化熱処理 コ：D-2-⑥ 国：総論XI-12-ケ	〃
10	4月26日	歯科用金属材料(4)	加工硬化と諸性質の変化 コ：D-2-⑥ 国：総論XI-12-ク	〃
11	5月10日	歯科用金属材料(5)	ろう付け用材料の特性と使用法 コ：D-2-② 国：総論XI-9-ス, 12-カ	〃
12	5月10日	歯科用インプラント	歯科用インプラントの概要と理工学的性質 コ：D-1-②③, E-3-4)-(3)-①② 国：総論XI-16-ア	覚本 嘉美
13	5月17日	生体材料	骨補填材や組織工学用材料の種類と特性 コ：D-1-③, D-2-② 国：総論XI-16-イ～オ	岡田 英俊
14	5月17日	義歯床用材料(1)	床用アクリルレジン コ：D-2-② 国：総論XI-9-ア～エ, 15-オ	石田 喜紀
15	5月24日	義歯床用材料(2)	アクリルレジンによる義歯床の作製方法 コ：D-2-②⑥ 国：総論XI-9-ア～エ, 10-ア～エ	〃
16	5月24日	義歯床用材料(3)	床用材料の比較と義歯裏装材について コ：D-2-②⑥ 国：総論XI-9-ア～カ	〃
17	5月31日	歯冠用材料(1)	歯科用陶材の臨床応用と所要性質 コ：D-2-② 国：総論XI-8-イ～カ	〃
18	5月31日	歯冠用材料(2)	歯科用陶材の理工学的性質 コ：D-2-② 国：総論XI-8-イ～オ	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
19	6月7日	歯冠用材料(3)	陶材焼付鋳造冠の特性と作製法 コ：D-2-②⑥ 国：総論XI-11-ア, イ	石田 喜紀
20	6月7日	歯冠用材料(4)	歯科用陶材冠の作製法 コ：D-2-②⑥ 国：総論XI-11-ウ, エ, 13-ウ	〃
21	6月14日	歯冠用材料(5)	硬質レジン前装冠の特性 コ：D-2-② 国：総論XI-8-ア, ス, 13-エ	〃
22	6月14日	歯科用セメント(1)	歯科用合着材の用途 コ：D-2-⑦ 国：総論XI-14-ア～カ	岡田 英俊
23	6月21日	歯科用セメント(2)	歯科用合着材の成分と特性(1) コ：D-2-⑦ 国：総論XI-14-ア～カ	〃
24	6月21日	歯科用セメント(3)	歯科用合着材の成分と特性(2) コ：D-2-⑦ 国：総論XI-14-ア～カ	〃
25	6月28日	歯科用セメント(4)	接着の理論 コ：D-2-⑦ 国：総論XI-13ア, イ, 14-ア, 15-ウ	〃
26	6月28日	歯科用セメント(5)	裏層材, 覆髄材および根管充填材の特性 コ：D-2-⑦ 国：総論XI-7-カ～ケ, 8-シ	〃
27	7月5日	歯科用セメント(6)	裏層材, 覆髄材および根管充填材の特性 コ：D-2-⑦ 国：総論XI-7-カ～ケ, 8-シ	〃
28	7月5日	修復物の研磨(1)	研磨に関する理論, 研磨用工具の種類と特性 コ：D-1-④ 国：総論XI-3-ア, イ	石田 喜紀
29	7月12日	修復物の研磨(2)	切削研磨用機械の種類と特性 コ：D-1-④ 国：総論XI-2-イ～エ	〃
30	7月12日	予防填塞材料・矯正用材料	予防填塞材料の種類, 成分および特性 矯正用材料の種類と特性 コ：D-2-② 国：総論XI-7-オ, 15-ア～オ	〃

生体材料・歯科材料学実習

科目責任者：岡田 英俊

担当教員：岡田 英俊、石田 喜紀、熊倉 学（非常勤講師）、
泉 俊郎（非常勤講師）

1. 科目の概要

歯科理工学という科目は単に材料の物性や機器の構造を学ぶのみではない。歯科補綴学、保存修復学をはじめ、その他臨床で使用する材料や機器を、科学的法則に基づいてより効果的に取り扱う手法を学ぶことにある。したがって、生体材料・歯科材料学の実習では講義で学んだ理論を実証し、講義で理解が不十分であったところを実際に自らの手で扱い、目で観察することによってその材料の基本的な性質および正しい使用法を学ぶ。

2. 一般目標

歯科臨床で取り扱う材料と器械を正しく使用するために、その特性と操作法を理解する。

3. 到達目標

- 1) 印象材と模型材の種類および特性を理解し操作できる。
- 2) 義歯床と鋳造物について関連材料の特性を理解し作製法を習得する。
- 3) 切削・研磨用材料の種類および特性を理解する。
- 4) 成形修復材料および歯科用セメントの種類と特性を理解し操作できる。
- 5) 金属の熱処理について操作法と性質の変化を理解する。

4. 講義形態

実習書を基にビデオ映像や実技のデモなどで説明し、実際に材料・器具に触れる。実習を進めるにあたりチェック項目を設け、各項目で担当教員がチェックを行う。また、知識の習得と技術の向上のために試験を行い理解を深める。実習中は疑問点を聞き出し解説する。

5. 時間外学習

予習：実習内容や使用機材を実習書にて確認し、準備することで実習をスムーズに行えるようにする。(30分)

復習：用いた材料の特徴および成分、機器の使用法を再確認し説明できるようにする。(30分)

その他：各項目ごとの「実習の目的」について教科書や講義ノートを基にまとめる。

6. 評価方法

①実習の各工程に対するチェックと提出した作品の評価および実習態度（40％）、②6回の小試験（30％）、③総合筆記試験と実技試験（30％）により評価する。

7. 教科書

生体材料学講座編「生体材料・歯科材料学実習書」日進堂印刷所 2016年

楳本貢三 他「スタンダード歯科理工学第5版」学建書院 2014年

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：)，出題基準記号(国：)	
1	4月5日	オリエンテーション・印象材・模型材(1)	器材チェック，印象用関連機材の操作法 コ：D-2-③ 国：総論XI-4-オ	岡田 英俊 石田 喜紀 熊倉 学 覚本 嘉美 泉 俊郎
2	4月12日	印象材・模型材(2)	印象採得と模型製作 コ：D-2-③④ 国：総論XI-4-オ，5-ア	〃
3	4月19日	印象材・模型材(3)	床用模型の製作 コ：D-2-④ 国：総論XI-5-ア	〃
4	4月25日	印象材・模型材(4)	支台原型の印象採得と作業用模型製作(1) コ：D-2-③ 国：総論XI-4-キ	〃
5	4月26日	印象材・模型材(5)	支台原型の印象採得と作業用模型製作(2) コ：D-2-③④ 国：総論XI-4-キ，5-ア	〃
6	5月10日	歯科精密鋳造(1)	ワックスパターンの製作と埋没 コ：D-2-⑤⑥ 国：総論XI-6-ア，12-イ	〃
7	5月17日	歯科精密鋳造(2)	鋳造操作と鋳造体の取り出し コ：D-1-④，2-⑤⑥ 国：総論XI-12-ア	〃
8	5月24日	歯科精密鋳造(3)	適合度の測定と鋳造体の研磨 コ：D-1-④，2-⑥ 国：総論XI-3，12-エ，オ	〃
9	5月31日	床用レジン(1)	ワックスパターンの作製と人工歯の排列 コ：D-2-②⑤⑥ 国：総論XI-6-イ，9-オ	〃
10	6月7日	床用レジン(2)	埋没と流ロウ コ：D-2-②⑥ 国：総論XI-9-ア	〃
11	6月14日	床用レジン(3)	もち状物の填入と重合 コ：D-1-④，2-②⑥ 国：総論XI-9-ア，10-ア	〃
12	6月21日	床用レジン(4)	適合度の測定と重合体の研磨 コ：D-1-④，2-②⑥ 国：総論XI-3，9-イ	〃
13	6月28日	成形修復材	成形修復材の充填と硬さの測定 コ：D-2-① 国：総論XI-1-カ，7-ア，ウ	〃
14	7月5日	合着用セメント・金属の熱処理	セメントの練和操作と被膜厚さの測定 熱処理した鋳造体の硬さの測定 コ：D-2-⑥⑦ 国：総論XI-1-カ，8-ク，12-ク，ケ，14-イ	〃
15	7月12日	実習試験	筆記試験，実技試験 コ：D-1，2 国：総論XI-3～10，12～14	〃

口腔衛生学

科目責任者：廣瀬 公治

担当教員：廣瀬 公治，大橋 明石，菊地 正樹（非常勤講師）

1. 科目の概要

口腔衛生学は健康に関する様々な事象を捉え、人々の健康を保持・増進するための方策を考究し、国民の健康に寄与する学問である。治療歯科医学は、その主たる対象を疾病を持つ患者個人とする。一方、口腔衛生学は疾病の有無は問わず、また個人ではなく集団を対象とするところに本学科目の最大の特徴がある。すなわち口腔衛生学では、口腔健康科学に関することはもちろんのこと、社会科学の内容を取り入れた学際的内容を学ぶ。前段に教授する衛生学・公衆衛生学の内容は医学教育とほぼ同等の事柄を学ぶ。すなわち、口腔衛生学は歯学・医学の共通言語を学ぶ科目であることに着意し教育実施する。

2. 一般目標

人間集団を対象とした健康増進や疾病予防を図るための基礎を理解し、地域口腔保健支援活動及び予防歯科診療に対応するための基本的知識を習得する。

3. 到達目標

- 1) 健康の概念と予防のステージを説明する。
- 2) 自然環境や社会環境の変化と健康との関連を説明する。
- 3) 地域歯科保健活動の内容と実施方法および法的枠組みを説明する。
- 4) 口腔疾患の成り立ちと予防法を説明する。

4. 講義形態

- 1) 教科書を参照しながら講義を進めるので教科書は必ず持参すること。
- 2) 講義は板書中心に実施する。必ず1冊のノートを用意すること。
- 3) 講義中の質疑応答を活発に行う。

5. 時間外学習

予習：教科書の講義該当箇所を読むこと。(20分)
復習：講義ノートと教科書の記載を基に、断片的ではなくストーリーをもって理解をする。(30分)
その他：保健・医療・福祉に関する報道に興味を持つこと。

6. 評価方法

定期試験100%とし、65点以上を合格とする。

7. 教科書

末高武彦 他 編 スタンダード衛生・口腔衛生学 学建書院 2013
末高武彦 他 編 新口腔保健学 医歯薬出版 2015

8. 参考書

特に指定しない。

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：)，出題基準記号(国：)	
1	4月7日	衛生学序論	衛生学・公衆衛生学概論，健康の定義 コ：B-1-① 国：総論Ⅰ-1-ア，イ 総論Ⅰ-7-ア，イ 総論Ⅱ-1-ア，イ	廣瀬 公治
2	4月7日	衛生学序論	PHCとHP，健康日本21(第二次)，保健戦略 コ：B-2-2)⑩ B-3-1)-③ 国：総論Ⅰ-4-ウ，カ	〃
3	4月14日	疫学	疫学の概念，疫学要因，交絡とバイアス コ：B-2-2)⑩ B-3-1)-③ 国：総論Ⅰ-4-ウ，カ	〃
4	4月14日	疫学	疫学の研究方法(記述疫学，横断研究，縦断研究) コ：B-2-2)⑩ B-3-1)-③ 国：総論Ⅰ-4-ウ，カ	〃
5	4月21日	疫学	患者対照研究，オッズ比 コ：B-4-1)① 国：総論Ⅱ-10-イ，エ，オ	〃
6	4月21日	疫学	コホート研究，相対危険，寄与危険介入研究 コ：B-4-1)① 国：総論Ⅱ-10-イ，エ，オ	〃
7	4月28日	疫学	計算演習(オッズ比，相対危険，寄与危険) コ：B-4-1)① 国：総論Ⅱ-10-イ，エ，オ	〃
8	4月28日	疫学	介入研究，臨床試験，EBM(メタアナリシス，システムティックレビュー) コ：B-4-1)① 国：総論Ⅱ-10-イ，エ～カ	〃
9	5月12日	疫学	スクリーニングテスト コ：B-4-1)② 国：総論Ⅱ1-エ，10-ア～オ	〃
10	5月12日	疫学	スクリーニングテストの効率指標 コ：B-4-1)② 国：総論Ⅱ1-エ，10-ア～オ	〃
11	5月16日	疾病予防	感染症とその予防，感染症に関する法律 コ：B-1-②③，C-3-1)-② 国：総論Ⅱ-11-ア～ウ	〃
12	5月16日	疾病予防	生活習慣病の予防(悪性新生物，内臓脂肪症候群) コ：B-1-②③，C-3-1)-②，B-4-2)-①② 国：総論Ⅱ-1-ア，イ	〃
13	5月19日	疾病予防	疾病の概念，予防の3相5段階 コ：B-1-③，B-3-1)① 国：総論Ⅰ-1-ア～オ	〃
14	5月19日	疾病予防	感染症とその予防 コ：B-1-②③，C-3-1)-② 国：総論Ⅱ-11-ア～ウ	〃
15	5月26日	疫学	計算演習 コ：B-4-1)② 国：総論Ⅱ1-エ，10-ア～オ	大橋 明石
16	5月26日	歯科疾患実態調査	平成23年歯科疾患実態調査 コ：B-4-1)① 国：総論Ⅱ-9-ア，イ	〃
17	6月2日	環境衛生	環境と健康との関わり，地球環境の変化 コ：B-2-4)-①② 国：総論Ⅱ-13-ア～ウ	廣瀬 公治

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
18	6月2日	環境衛生	地球環境保全条約, 公害, 福島第一原発事故の影響を歯から調べる コ：B-2-4)-①② 国：総論Ⅱ-13-ア～ウ	廣瀬 公治
19	6月9日	環境衛生	温熱環境 コ：B-2-4)-①② 国：総論Ⅱ-13-ア～オ, キ	〃
20	6月9日	環境衛生	空気の衛生 コ：B-2-4)-①② 国：総論Ⅱ-13-ア～オ, キ	〃
21	6月16日	環境衛生	水の衛生 コ：B-2-4)-①② 国：総論Ⅱ-13-ア～オ, キ	〃
22	6月16日	環境衛生	廃棄物, 医療廃棄物, 住居と健康 コ：B-2-4)-①② 国：総論Ⅱ-13-カ, キ, ケ, コ	〃
23	6月23日	食品衛生	日本人の食事摂取基準 コ：B-1-③ 国：総論Ⅱ-12-ア, イ, オ, カ	大橋 明石
24	6月23日	食品衛生	国民健康栄養調査, 特別用途表示 コ：B-1-③ 国：総論Ⅱ-12-ア, イ, オ, カ	〃
25	6月30日	食品衛生	食中毒(感染型, 毒素型) コ：B-1-③ 国：総論Ⅱ-12-オ	廣瀬 公治
26	6月30日	精神保健障害者保健人口問題	精神保健, ICD-10, 自立支援医療と福祉制度の概要, 人口動態(国勢調査), 年齢3区分と指数 コ：B-2-2)④ B-4-2)-①～③ 国：総論Ⅱ-9-ア, イ国:	〃
27	7月7日	人口問題	将来推計人口と我が国の少子高齢化に伴う諸問題 コ：B-4-2)-①～③ 国：総論Ⅱ-9-ア, イ	〃
28	7月7日	人口問題	人口動態, 生命表 コ：B-4-2)-①～③ 国：総論Ⅱ-9-ア, イ	〃
29	7月14日	口腔環境	口腔の発育と加齢, 唾液の機能 コ：B-3-2)-① 国：総論Ⅱ-1-オ	〃
30	7月14日	口腔環境	口腔内不潔物の形成とその病原性 コ：B-3-2)-① 国：総論Ⅱ-1-オ, キ	〃
31	9月5日	歯口清掃	ブラッシング法, PTC コ：B-3-1)-①② B-3-2)-① 国：各論Ⅰ-6-ア～エ, カ	大橋 明石
32	9月12日	歯口清掃	歯磨剤 コ：B-3-1)-① B-3-2)-① 国：各論Ⅰ-6-ア～エ, カ	廣瀬 公治
33	9月26日	齲蝕の予防	フッ化物の基礎, フッ素の生体内濃度と消長 コ：B-3-2)-①② 国：各論Ⅰ-1-オ, キ	大橋 明石
34	10月3日	齲蝕の予防	フッ化物による齲蝕予防法 コ：B-3-1)-② B-3-2)-①②③ 国：各論Ⅰ-1-オ, キ	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
35	10月17日	実習試験	環境衛生分野	全 員
36	10月24日	齲蝕の予防	フッ化物による齲蝕予防法, ステファンカーブと代用甘味料 コ：B-3-2)-① 国：各論Ⅰ-1-ア～オ	大橋 明石
37	10月31日	齲蝕予防法	小窩裂溝填塞 コ：B-3-2)② 国：各論Ⅰ-1-オ	菊地 正樹
38	11月7日	歯科疫学指標	平成23年歯科疾患実態調査 コ：B-4-2)①③ 国：総論Ⅰ-1-エ, カ 総論Ⅰ-10ク, ケ	大橋 明石
39	11月14日	実習試験	予防歯科分野・衛生統計分野	全 員
40	11月21日	口臭	口臭とその予防, 口臭検査 コ：B-3-2)① 国：各論Ⅰ-4-ア～ウ	廣瀬 公治
41	11月28日	地域保健	母子保健法, 母子保健用語, 母子保健事業, 児童虐待 コ：B-2-2)-① B-3-2)-④ 国：総論Ⅱ-2-キ～ケ 総論Ⅱ-10-サキ 各論Ⅰ-2-ア～オ	〃
42	12月5日	実習試験	口腔衛生分野	全 員
43	12月12日	地域保健	学校保健, 成人・老人歯科保健 コ：B-2-2)-①⑤ B-3-2)-④ 国：総論Ⅱ-3-エ, オ 総論Ⅱ-4-ア～ウ 総論Ⅱ-6-ア～オ 総論Ⅱ-10-キ	廣瀬 公治
44	12月19日	臨床予防歯科	不正咬合の予防, チェアーサイドでの保健指導, 地域ケア, 周術期の口腔ケア コ：B-3-1)①～③ 国：各論Ⅰ-3-ア～ウ	〃
45	12月20日	臨床予防歯科	歯周病の疫学と全身との関連, 受動喫煙と齲蝕との関連, フィールドワークの実践例 コ：B-3, B-4 国：総論Ⅱ-10-キ 各論Ⅰ-2-ア～オ	〃

口腔衛生学実習

科目責任者：廣瀬 公治

担当教員：廣瀬 公治、瀬川 洋、車田 文雄、大橋 明石、結城 昌子、
中川 正晴（非常勤講師）、大澤 武雄（非常勤講師）、菊地 正樹（非常勤講師）、
相馬 親良（非常勤講師）

1. 科目の概要

衛生学・公衆衛生学の口腔衛生学は、健康を出発点とするHealth Oriented Conceptsを持つ学問である。歯科医師が公衆衛生学知識を保持して活動するのは主に集団を対象とした健康診査や保健指導などの地域保健支援の現場である。そこで本実習では、人間の健康に影響を与える環境要因や、地域歯科保健活動の主をなす、歯科疫学指標の収集の基本を体得する。

2. 一般目標

疾病の予防を図り国民の健康の保持・増進に寄与するための基本的技能を習得する。

3. 到達目標

- 1) 水の衛生と健康との関連を説明する。
- 2) 環境要因を自ら測定し室内の環境を評価できる。
- 3) 口腔内診査を行いその結果を指標で説明できる。
- 4) 齲蝕リスクを評価できる。
- 5) 統計分析を行いその意義を説明する。

4. 講義形態

実技を取り入れた実習形態で学ぶ。

5. 時間外学習

予習：実習に関連する講義ノートと教科書を基に、実習書にある実技内容との関連を予習すること。（40分）

復習：レポート作成を通し、実習内容を理解し、その結果の持つ根拠と意義を考察する（80分）
その他：

6. 評価方法

- 1) 学則で定める出席基準を満たす
 - 2) 実習実施全レポートの提出
 - 3) 実習試験（筆記試験）が環境衛生分野と口腔衛生分野それぞれ65点以上
- 上記すべてを満たすものを合格とする。

7. 教科書

荒川浩久、廣瀬公治、安井利一 編 「生活と健康－測定と評価法－」 学建書院 2010

8. 参考書

末高武彦 他 編 スタンダード衛生・口腔衛生学 学建書院 2013

末高武彦 他 編 新口腔保健学 医歯薬出版 2015

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
1	9月7日	講義 齲蝕の予防	齲蝕の疫学と病因 コ：B-3-2)-①③ 国：総論Ⅱ-10-コ 各論Ⅰ-1-ア～エ	廣瀬 公治
2	9月14日	講義 齲蝕の予防	フッ化物中毒、安全なフッ化物の使用、計算問題 コ：B-3-2)-② 国：各論Ⅰ-1-オ、キ、ク	大橋 明石
3	9月21日	実習 環境衛生	3グループに編成し実習を行う。 1. 温熱環境と空気の衛生 2. 水の衛生 3. 騒音と疲労 コ：B-2-4)-①② 国：総論Ⅱ-13-ア、ケ、コ	廣瀬 公治 瀬川 洋 車田 文雄 大橋 明石 結城 昌子 菊地 正樹
4	9月28日	実習 環境衛生	3グループに編成し実習を行う。 1. 温熱環境と空気の衛生 2. 水の衛生 3. 騒音と疲労 コ：B-2-4)-①② 国：総論Ⅱ-13-ア、ケ、コ	〃
5	10月5日	実習 環境衛生	3グループに編成し実習を行う。 1. 温熱環境と空気の衛生 2. 水の衛生 3. 騒音と疲労 コ：B-2-4)-①② 国：総論Ⅱ-13-ア、ケ、コ	〃
6	10月12日	講義 歯科疫学指標	齲蝕指標、口腔清掃指標、CFI、DAI、練習問題 コ：B-4-1)-③ B-4-2)-③ 国：総論Ⅱ-10-キ、ク、ケ	大橋 明石
7	10月19日	講義 歯科疫学指標	歯周疾患指標、練習問題 コ：B-4-1)-③ B-4-2)-③ 国：総論Ⅱ-10-キ、ク、ケ	〃
8	10月26日	実習 口腔診査	1. 硬組織診査 2. 歯周組織診査 3. 学校歯科健康診断要領 4. その他の口腔内疾患の診査 5. 歯科疫学指標の算出 コ：B-4-1)-③ 国：総論Ⅱ-3-オ 総論Ⅱ-10-キ～シ 各論Ⅰ-2-カ	廣瀬 公治 瀬川 洋 車田 文雄 大橋 明石 結城 昌子 菊地 正樹 相馬 親良
9	11月2日	実習 齲蝕予防法	3つの課題をローテーションで実施する。 1. 齲蝕活動性試験 2. 小窩裂溝填塞 3. フッ素の基礎実験 コ：B-3-2)①～③ 国：各論Ⅰ-1-ア～ク	廣瀬 公治 瀬川 洋 車田 文雄 大橋 明石 結城 昌子 菊地 正樹

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
10	11月9日	実習 歯口清掃	1. 歯垢染色 2. 歯口清掃状況診査(PCR, OHI) 3. ブラッシング法の選択 4. 口臭測定 5. 齲蝕活動性試験判定 6. 口腔内総合評価 コ：B-3-1)-① B-3-2)-①, ⑤ 国：総論Ⅱ-10-ケ 各論：Ⅰ-1-オ 各論Ⅰ-4-ア～ウ 各論Ⅰ-6-ア～ウ	廣瀬 公治 瀬川 洋 車田 文雄 大橋 明石 結城 昌子 中川 正晴 大澤 武雄 菊地 正樹 相馬 親良
11	11月16日	実習 統計実習	歯科疫学統計解析 コ：B-4-1)-③ B-4-2)-③ 国：総論Ⅱ-10-ウ	結城 昌子
12	11月30日	講義 地域保健	母子歯科保健, 1歳6か月児・3歳児歯科健 診 コ：B-2-2)-① B-3-2)-④ 国：総論Ⅱ-2-キ～ケ 総論Ⅱ-10-キ	廣瀬 公治
13	12月7日	講義 地域保健	学校保健, 学校保健の意義と対象, 保健管理 コ：B-3-2)-④ 国：総論Ⅱ-3-エ, オ 総論Ⅱ-10-キ	〃
14	12月14日	講義 地域保健	学校歯科健康診査 コ：B-3-2)-④ 国：総論Ⅱ-3-エ, オ 総論Ⅱ-10-キ	〃
15	12月21日	講義 地域保健 実習再試験(環境衛生, 予防歯科, 衛生統計)	産業歯科保健, 労働安全衛生法, 3 管理, THP コ：B-2-2)-①, ⑤ B-3-2)-③ 国：総論Ⅱ-4-ア～ウ 総論Ⅱ-5-ア～エ 総論Ⅱ-6-ア～オ	〃

保存修復学Ⅰ

科目責任者：山田 嘉重

担当教員：山田 嘉重，菊井 徹哉

1. 科目の概要

歯、歯周組織の疾病および形態異常などの病的な状態を、歯を抜去ことなく処置して歯の本来の形態と機能を回復させるための学問を歯科保存学という。

齲蝕、歯の破折および摩耗などにより生じた自然治癒しない硬組織実質欠損に対して、病変の進行を阻止して歯の生理学的機能を回復させるとともに、審美的にも調和する生体親和性のある修復方法を研究する分野が保存修復学である。

保存修復学は通常、総論と各論に分けて講義される。保存修復学Ⅰでは総論として保存修復学を総覧する形で総括的項目や各種修復法に共通する原理と技術、特に齲蝕の診断、処置方法、窩洞形成の理論ならびにその問題点を講義し、さらに各論として各種修復法の理論と術式について講義する。

2. 一般目標

齲蝕、非齲蝕性硬組織疾患による実質欠損を適切に治療するために、基礎知識として疾患の診断と処置方法、窩洞および各種修復法に共通する原理や基本的技術の理論を習得する。

3. 到達目標

- 1) 保存修復学の概要を説明する。
- 2) 齲蝕、非齲蝕性硬組織疾患の病因と病態を説明する。
- 3) 患者と病変の診査方法および治療方法を説明する。
- 4) 切削機器、器具の名称と用途を説明する。
- 5) 感染歯質の特徴と適切な除去方法を説明する。
- 6) 窩洞の分類、特徴および形成方法を説明する。
- 7) 修復時の留意点と修復補助方法を説明する。
- 8) 滅菌、消毒と感染予防について説明する。
- 9) 歯髄障害の原因と対策を説明する。
- 10) 修復物に必要な形態と面性状および術後管理について説明する。

4. 講義形態

講義による学習の方法は以下のごとくである。

- 1) 講義は教科書の内容をシラバスの予定に従って行なう。
- 2) 板書による説明および視覚素材を用いた補足説明を行ない、教科書の内容をよりわかりやすく解説する。
- 3) 学生は板書および配付資料（教科書の抜粋）に沿って受講し、要点および追加事項を記入する。
- 4) 学生は理解が不十分な点について適宜教員に質問して理解を深める。

5. 時間外学習

予習：講義の予定範囲について指定された教科書を事前に読むこと。（30分）

復習：教科書、講義ノートおよび配付資料の内容を比較して、要点を整理し各自のノートにまとめること。（60分）

その他：必要に応じてオフィシアワーを活用し、教員に質問すること。また、図書館を活用すること。

6. 評価方法

講義期間中に中間試験（50%）、後期定期試験（50%）を行い、双方を評価資料（100%）として65点以上を合格とする。

7. 教科書

- 1) 千田 彰，寺下正道，寺中敏夫，宮崎真至（編）「保存修復学 第6版」医歯薬出版 2013年版
- 2) 田上順次，千田 彰，奈良 陽一郎，桃井保子（監修）「保存修復学21 第4版」永末書店 2011年版

8. 参考書

教科書を標準資料として学習する。その他に参考書を必要とする場合は各自選択すること。

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：)，出題基準記号(国：)	
1	9月5日	保存修復学概論①(2限)	保存修復学の概念と目的，歴史，修復材料の一般的性質，治療器械の変遷 コ：E-3-3)-(1)⑥⑦，D-1，2 国：総論Ⅸ	山田 嘉重
2	9月5日	保存修復学概論②(3限)	保存修復の種類と適応症，修復処置の流れ歯の構造と機能，硬組織の加齢に伴う変化 コ：E-3-1)，2)，3) 国：各論Ⅲ-3-イーキ	〃
3	9月12日	硬組織疾患①(5限)	齲蝕，齲蝕の病因と病態① コ：E-3-2)①②⑤⑥ 国：各論Ⅰ-1-アーク，Ⅲ-2-ア，イ	〃
4	9月12日	硬組織疾患②(6限)	齲蝕の病因と病態②，齲蝕の分類，表記 コ：E-3-2)①，E-3-3)-(1)① 国：各論Ⅰ-1-アーク，Ⅲ-2-ア，イ	〃
5	9月26日	硬組織疾患③	非齲蝕性硬組織疾患，変色歯，象牙質知覚過敏 コ：E-3-2)②，E-3-3)-(1)③ 国：各論Ⅰ-5-アーク，Ⅱ-3-アーシ，Ⅲ-2-ウ，エ，オ，カ	菊井 徹哉
6	9月26日	診断と治療計画①	医療面接，硬組織疾患の検査法，問題点の抽出 コ：E-3-3)-(1)⑬ 国：各論Ⅰ-1-アーク，5-ア，イ，ウ，ク，6-アーエ	〃
7	10月3日	診断と治療計画②	治療計画，インフォームドコンセント コ：E-3-3)-(1)⑬ 国：各論Ⅰ-1-アーク，5-ア，イ，ウ，ク，6-アーエ	〃
8	10月3日	硬組織切削	診療設備，治療姿勢，手用切削器具，回転切削器具，医療用レーザー，超音波切削器具，化学的歯質溶解剤 コ：D-1-④ 国：総論Ⅸ-2-アーエ，3-ア，イ	〃
9	10月17日	修復時の留意点①	象牙質・歯髄複合体の保護，裏層，覆髄および仮封 コ：E-3-1)④，E-3-3)-(1)⑨ 国：各論Ⅲ-3-オ	山田 嘉重
10	10月17日	修復時の留意点②	治療の前準備・修復補助法 修復物の具備すべき条件 コ：E-3-3)-(1)⑧ 国：各論Ⅲ-3-イ，ウ	〃
11	10月24日	窩洞①	窩洞の分類，窩洞の構造と各部の名称，窩洞の具備すべき条件① コ：E-3-3)-(1)⑩ 国：各論Ⅲ-3-エ	菊井 徹哉

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
12	10月24日	窩洞②	窩洞の具備すべき条件②, 接着性修復と非接着性修復での窩洞の違い コ：E-3-3)-(1)⑩ 国：各論Ⅲ-3-エ	菊井 徹哉
13	10月31日	齲蝕の処置①	エナメル質齲蝕, 象牙質齲蝕 コ：E-3-3)-(1)② 国：各論Ⅰ-1-ア, イ, ウ, Ⅲ-ア, イ	
14	10月31日	齲蝕の処置②	象牙質齲蝕, 根面齲蝕 コ：E-3-3)-(1)② 国：各論Ⅰ-1-ア, イ, ウ, Ⅲ-ア, イ	〃
15	11月7日	硬組織疾患 総括中間試験	齲蝕・非齲蝕性硬組織疾患の診査・診断, 治療計画, 窩洞 コ：E-3-3)-(1)① 国：各論Ⅰ-5-ア, Ⅲ-2-ウ	菊井 徹哉
16	11月7日	非齲蝕性硬組織疾患の処置①	tooth wear (歯の損耗)の処置 コ：E-3-3)-(4)① 国：各論Ⅲ-6-ア	山田 嘉重
17	11月14日	非齲蝕性硬組織疾患の処置②	象牙質知覚過敏症の処置 コ：E-3-3)-(1)③, 3-3)-(4)① 国：各論Ⅰ-5-ア, Ⅲ-6-ア	〃
18	11月14日	非齲蝕性硬組織疾患の処置③	変色歯の処置 コ：E-3-3)-(1)⑤, E-3-3)-(2)⑦ 国：各論Ⅰ-5-イ, Ⅲ-2-オ, Ⅲ-3-キ	〃
19	11月21日	非齲蝕性硬組織疾患の処置④	破折歯の処置 コ：E-3-3)-(1)⑬ 国：各論Ⅰ-5-ウ, ク, Ⅱ-5-ア, イ, ウ, Ⅲ-2-カ	〃
20	11月21日	非齲蝕性硬組織疾患の処置⑤	形態異常と歯列不正の処置 コ：E-3-3)-(1)⑬ 国：各論Ⅰ-3, Ⅱ-3-アーシ, Ⅱ-6-アーオ, Ⅲ-2-エ	〃
21	11月28日	歯冠修復法概論	硬組織疾患修復の概念(M I 概念) 直接修復法と間接修復法, アマルガム修復 コ：E-3-3)-(1)⑥⑦, D-2① 国：各論Ⅲ-3-イ, ウ	〃
22	11月28日	歯質接着システム①	歯面処理法と歯質接着 コ：E-3-3)-(1)⑥⑦, D-2① 国：総論Ⅸ-7-イ, Ⅸ-13-ア, イ	菊井 徹哉
23	12月5日	歯質接着システム②	各種接着システムの特徴 コ：E-3-3)-(1)⑦, D-2⑥⑦, 総論Ⅸ-13-ア, イ	〃
24	12月5日	コンポジットレジン修復①	コンポジットレジン修復：材料学, 適応症 コ：E-3-3)-(1)⑦, D-2⑥⑦, 総論Ⅸ-8-ア	〃
25	12月12日	コンポジットレジン修復②	コンポジットレジン修復：窩洞の特徴 コ：E-3-3)-(1)⑩ 国：総論Ⅸ-8-ア, 各論Ⅲ-3-エ	〃
26	12月12日	コンポジットレジン修復③	コンポジットレジン修復：臨床手順 コ：E-3-3)-(1)⑧ 国：総論Ⅸ-8-ア, Ⅸ-10-イ, ウ	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
27	12月19日	コンポジットレジン修復④	コンポジットレジン修復：修復の留意点 コ：E-3-3)-(1)⑫ 国：総論Ⅸ-8-ア	菊井 徹哉
28	12月19日	コンポジットレジン修復⑤	コンポジットレジン修復：修復各論, 修復補助器具 コ：E-3-3)-(1)⑧⑫ 国：総論Ⅸ-8-ア	〃
29	12月20日	グラスアイオノマーセメント修復①	従来型グラスアイオノマーセメント：材料学 レジン添加型グラスアイオノマーセメント：材料学 コ：E-3-3)-(1)⑦ 国：総論Ⅸ-7-ウ	〃
30	12月20日	グラスアイオノマーセメント修復②	グラスアイオノマーセメント修復の臨床手技 適応症, A R T 法 コ：E-3-3)-(1)⑧⑫, D-2① 国：総論Ⅸ-7-ウ	〃

冠橋義歯補綴学Ⅰ

科目責任者：寺田 善博

担当教員：寺田 善博

1. 科目の概要

冠橋義歯補綴学は、歯科治療の最終処置と言われている歯科補綴学の一分野であり、臨床の中でも重要な位置を占めている。この中には比較的大きな歯冠部歯質欠損に対し、種々な材料を用いて機能、形態および審美性を回復するクラウンと、少数歯欠損に対して、隣在歯に維持を求めて欠損部を補うブリッジとがある。これらは単に失われた形態や機能を回復するだけでなく、生体と調和して周囲の組織に為害作用をおよぼすことなく、長期間維持されることが重要である。クラウンブリッジは歯科治療の中でも高頻度な治療方法であることから、安全かつ確実な治療を施すためには、顎口腔系諸器官の機能や形態に関する知識の修得のみならず、使用する機械の特徴や材料の性質についても把握する必要がある、かつ歯学全般の幅広い知識と熟練した技能が必要とされる。そこで、冠橋義歯補綴学Ⅰではクラウンブリッジの歴史と総論および口腔内での臨床操作について教授する。

2. 一般目標

歯冠部歯質欠損および少数歯欠損による咬合・咀嚼障害や審美的障害を治療できるようになるために、クラウンおよびブリッジを応用した補綴法に必要な知識を修得する。

3. 到達目標

- 1) クラウンブリッジの歴史を説明する。
- 2) クラウンブリッジ補綴学の意義と目的を説明する。
- 3) クラウンブリッジの要件を説明する。
- 4) クラウンの種類を説明する。
- 5) ブリッジの種類と構成を説明する。

4. 講義形態

教科書を中心として、配布プリントや液晶プロジェクターの視覚素材を用いて講義する。

5. 時間外学習

予習：シラバスを確認して、次回の講義内容について教科書で予習を行う。(30分)

復習：小テストで間違った問題を中心に教科書等で再度確認する。(30分)

その他：

6. 評価方法

出席・態度評価（10%）、記述式試験ならびに客観的試験による評価（90%）とし、65点以上を合格とする。

7. 教科書

第5版 「クラウンブリッジ補綴学」 医歯薬出版

8. 参考書

歯科補綴学専門用語集 医歯薬出版

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
1	9月1日	クラウンブリッジ補綴学の意義と目的	クラウンブリッジ補綴学の意義と目的を講義する。 コ：E-3-4) 国：各論V-4-ア～ソ	寺田 善博
2	9月8日	クラウンブリッジおよびインプラントの臨床成績	クラウンブリッジおよびインプラントの臨床成績について講義する。 コ：E-3-4)-(1)⑩ 国：各論V-10-ウ～カ	

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
3	9月15日	咬合・歯周組織の正常像と咬合・咀嚼障害	咬合・歯周組織の正常像と咬合・咀嚼障害について講義する。 コ：E-1-1), 2) 国：各論V-1-ア	寺田 善博
4	9月29日	診察と診断と感染予防	クラウンブリッジ補綴に必要な診察項目と診断法および感染予防について講義する。 コ：E-1-1), 2) 国：各論V-2-ア	
5	10月6日	治療計画を左右する因子	治療計画を左右する口腔内因子および全身的因子について講義する。 コ：E-3-4)-(1) 国：各論V-2-エ	〃
6	10月13日	クラウンブリッジの要件	クラウンブリッジに求められている要件について講義する。 コ：E-3-4)-(1)① 国：各論V-3-ア～コ	
7	10月20日	クラウンの種類	クラウンの種類について講義する。 コ：E-3-4)-(1)② 国：各論V-4-ア	〃
8	10月27日	ブリッジの種類と構成	ブリッジの臨床的意義と構成要素および種類と適応症について講義する。 コ：E-3-4)-(1)② 国：各論V-4-イ	
9	11月10日	クラウンブリッジの設計	クラウンブリッジの設計について講義する。 コ：E-3-4)-(1)⑬ 国：各論V-4-イ	〃
10	11月17日	CAD／CAMによる製作	CAD／CAM冠の特徴と種類と製作法および適応症について講義する。 コ：E-3-4)-(1)② 国：各論V-4-ア	
11	11月24日	レジン前装冠	レジン前装冠の臨床的意義と適応症およびレジンと金属との結合様式について講義する。 コ：E-3-4)-(1)② 国：各論V-4-ア	〃
12	12月1日	ハイブリッド型コンポジットレジンを用いたジャケッ トクラウン	ハイブリッド型コンポジットレジン修復の臨床的意義および適応症と種類、製作法について講義する。 コ：E-3-4)-(1)② 国：V-4-ア	
13	12月8日	陶材焼付冠	陶材焼付冠の臨床的意義と適応症と製作法および陶材と金属との結合様式について講義する。 コ：E-3-4)-(1)② 国：V-4-ア	〃
14	12月15日	オールセラミック修復	オールセラミック修復の特徴と種類と製作法およびラミネートベニアについて講義する。 コ：E-3-4)-(1)② 国：V-4-ア	
15	12月22日	まとめ	まとめ コ：E-3-4) 国：必修1-ア-a, 各論V-2-カ	〃

有床義歯補綴学Ⅰ

科目責任者：山森 徹雄

担当教員：山森 徹雄，清野 晃孝，関根 貴仁

1. 科目の概要

有床義歯には歯の部分欠損に対する部分床義歯と全部欠損（無歯顎）に対する全部床義歯がある。有床義歯補綴学Ⅰでは全部床義歯補綴学を学習する。全部床義歯は上下顎の一方または両方の歯を喪失した症例に対して装着される義歯で，人工歯列を付与することにより顎顔面および口腔の形態，機能，審美性を回復するとともに，患者の健康を維持・増進する補綴装置である。ここでは全部床義歯を製作・装着するための理論を学ぶ。

2. 一般目標

無歯顎患者の健康を維持・増進させるために，全部床義歯の臨床的意義を理解し，全部床義歯を製作・装着するための知識を修得する。

3. 到達目標

- 1）無歯顎の特徴を説明する。
- 2）全部床義歯の維持力発現の因子を説明する。
- 3）全部床義歯の製作過程を説明する。
- 4）無歯顎の診察・検査・診断法および治療計画の立て方を説明する。
- 5）前処置の内容と方法を説明する。
- 6）全部床義歯の維持・支持に関する要因を説明する。
- 7）全部床義歯の製作過程における理論を説明する。
- 8）全部床義歯に付与する咬合の理論と平衡咬合を得るための削合を説明する。
- 9）全部床義歯のメンテナンスに対する考え方を説明する。
- 10）全部床義歯装着後の異常経過と疾病を説明する。

4. 講義形態

講義室において，スライド，プリントなどを用い，講義を中心とした学習を行う。

5. 時間外学習

予習：有床義歯学に関連する基礎科目として，口腔解剖学，口腔生理学，生体材料学の講義・実習を通して学んだ内容を復習して講義に臨む。(30分)

復習：講義内容を当日中に必ず復習し，講義中に指示のあった箇所および理解が不十分な項目については講義ノート，配布資料，教科書により自己学習を行う。(60分以上)

その他：

6. 評価方法

毎回の小テストで形成的評価を行う。総括的評価は，中間試験（40％），後期定期試験（50％）および出席状況（10％）により行う。

7. 教科書

細井紀雄 他 編：無歯顎補綴治療学 第3版 医歯薬出版 2016年

8. 参考書

日本補綴歯科学会編：歯科補綴学専門用語集 第4版 医歯薬出版 2015年

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：)，出題基準記号(国：)	
1	9月5日	無歯顎の特徴	無歯顎の成り立ちと無歯顎の特徴を学習する コ：E-3-4)-(2)①～③ 国：各論V-1-ア～オ	山森 徹雄
2	9月5日	全部床義歯の特徴	全部床義歯の構成要素と特徴を学習する コ：E-3-4)-(2)①～③⑥ 国：各論V-6-ア	〃
3	9月5日	全部床義歯の物理的維持	全部床義歯の維持をもたらす物理的因子について学習する コ：E-3-4)-(2)④ 国：各論V-6-ア	〃
4	9月6日	全部床義歯の解剖的維持	全部床義歯の維持をもたらす解剖的因子について学習する コ：E-3-4)-(2)④ 国：各論V-6-ア	〃
5	9月6日	全部床義歯の支持と安定	全部床義歯の支持と安定に影響を及ぼす因子について学習する コ：E-3-4)-(2)④ 国：各論V-6-ア	〃
6	9月12日	全部床義歯の製作過程	全部床義歯の製作過程・製作手順を学習する コ：E-3-4)-(2)⑪ 国：各論V-6-ア～サ	〃
7	9月12日	全部床義歯の製作過程	全部床義歯の製作過程・製作手順を学習する コ：E-3-4)-(2)⑪ 国：各論V-6-ア～サ	〃
8	9月12日	無歯顎の診察・検査	無歯顎の診察・検査項目を学習する コ：E-3-4)-(2)⑫ 国：各論V-2-ア～エ	〃
9	9月13日	無歯顎の診断基準と治療計画	無歯顎の診断基準と治療計画立案の仕方を学習する コ：E-3-4)-(2)⑫ 国：各論V-2-ア～エ	清野 晃孝
10	9月13日	前処置	無歯顎補綴治療の前処置を学習する コ：E-3-4)-(2)⑪ 国：各論V-2-カ	〃
11	9月20日	無歯顎の印象	筋圧形成，印象材の種類，印象方法について学習する コ：E-3-4)-(2)⑦ 国：各論V-6-イ	山森 徹雄
12	9月20日	無歯顎の印象	筋圧形成，印象材の種類，印象方法について学習する コ：E-3-4)-(2)⑦ 国：各論V-6-イ	〃
13	9月26日	作業用模型と咬合床	作業用模型，咬合床の製作における要点を学習する コ：E-3-4)-(2)⑧⑨ 国：各論V-6-ウ，エ	〃
14	9月26日	咬合採得の進め方	全部床義歯製作のための咬合採得の概要を学ぶ コ：E-3-4)-(2)⑧⑨ 国：各論V-6-ウ，エ	〃
15	9月26日	仮想咬合平面の設定	仮想咬合平面の決定法について学習する コ：E-3-4)-(2)⑧⑨ 国：各論V-6-ウ，エ	〃
16	9月27日	垂直的顎間関係の記録	咬合採得における垂直的顎間関係の決定と記録法について学習する コ：E-3-4)-(2)⑧⑨ 国：各論V-6-エ	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
17	9月27日	垂直的顎間関係の記録	咬合採得における垂直的顎間関係の決定と記録法について学習する コ：E-3-4)-(2)⑧⑨ 国：各論V-6-エ	山森 徹雄
18	10月3日	水平的顎間関係の記録	器具を使用しない水平的顎間関係の記録法について学習する コ：E-3-4)-(2)⑧⑨ 国：各論V-6-エ	〃
19	10月3日	ゴシックアーチによる水平的顎間関係の記録	特殊な器具を使用する水平的顎間関係の記録法について学習する コ：E-3-4)-(2)⑧⑨ 国：各論V-6-エ	〃
20	10月3日	下顎運動の記録法	二次元的, 三次元的下顎運動の記録法について学習する コ：E-3-4)-(2)⑦ 国：各論V-6-エ	〃
21	10月4日	顔弓と咬合器	顔弓を用いた咬合器装着法と咬合器の調節法について学習する コ：E-3-4)-(2)⑦ 国：各論V-6-オ	清野 晃孝
22	10月4日	顔弓と咬合器	顔弓を用いた咬合器装着法と咬合器の調節法について学習する コ：E-3-4)-(2)⑦ 国：各論V-6-オ	〃
23	10月11日	前歯部人工歯の選択	前歯部人工歯の種類と選択法について学習する コ：E-3-4)-(2)⑩ 国：各論V-6-カ	関根 貴仁
24	10月11日	前歯部人工歯の排列	前歯部人工歯の排列基準と排列法について学習する コ：E-3-4)-(2)⑪ 国：各論V-6-カ	〃
25	10月17日	臼歯部人工歯の選択	臼歯部人工歯の種類と選択法について学習する コ：E-3-4)-(2)⑤⑩⑪ 国：各論V-6-カ	山森 徹雄
26	10月17日	臼歯部人工歯の排列	臼歯部人工歯の排列の基本原則について学習する コ：E-3-4)-(2)⑤⑩⑪ 国：各論V-6-カ	〃
27	10月17日	全部床義歯に付与する咬合様式	全部床義歯に付与する咬合様式について学習する コ：E-3-4)-(2)⑤⑩⑪ 国：各論V-6-カ	〃
28	10月18日	歯肉形成	歯肉形成の原則と実際を学習する コ：E-3-4)-(2)⑪ 国：各論V-6-キ, ク	清野 晃孝
29	10月18日	蠟義歯の口腔内試適	蠟義歯の口腔内試適時の検査事項を学習する コ：E-3-4)-(2)⑪ 国：各論V-6-キ, ク	〃
30	10月25日	埋没	蠟義歯の埋没方法について学習する コ：E-3-4)-(2)⑪ 国：各論V-6-ケ	山森 徹雄
31	10月25日	重合	義歯床用レジンの重合法について学習する コ：E-3-4)-(2)⑪ 国：各論V-6-ケ	〃
32	11月1日	研磨	義歯床用レジンの研磨方法を学習する コ：E-3-4)-(2)⑪ 国：各論V-6-コ	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
33	11月1日	咬合器再装着	重合義歯の咬合器再装着の目的と方法を学習する コ：E-3-4)-(2)⑪ 国：各論V-6-コ	山森 徹雄
34	11月8日	削合	平衡咬合を付与するための選択削合と自動削合の理論と実際を学習する コ：E-3-4)-(2)⑤⑪ 国：各論V-6-コ	〃
35	11月8日	義歯装着	完成義歯の試適, 装着時の留意事項を学習する コ：E-3-4)-(2)⑬ 国：各論V-6-サ	〃
36	11月15日	中間試験		〃
37	11月15日	義歯装着時の患者教育	義歯装着時に患者へ説明・指導する内容を学習する コ：E-3-4)-(2)⑬ 国：各論V-6-シ	〃
38	11月22日	義歯装着後の経過	義歯装着後に生じる異常事項とそれへの対応の仕方について学習する コ：E-3-4)-(2)⑭ 国：各論V-10-ア〜キ	清野 晃孝
39	11月22日	義歯の修理	装着後の破損とそれに対する修理について学習する コ：E-3-4)-(2)⑬ 国：各論V-10-カ	〃
40	11月29日	リラインとリベース	全部床義歯のリライン, リベースについて学習する コ：E-3-4)-(2)⑬ 国：各論V-10-カ	山森 徹雄
41	11月29日	オーバーデンチャー	オーバーデンチャーの特徴, 適応症, 製作法について学習する コ：E-3-4)-(2)② 国：各論V-7-ア, イ	〃
42	12月6日	特殊な義歯	暫間義歯, 即時義歯, 治療用義歯, 移行義歯の特徴, 適応症, 製作法について学習する コ：E-3-4)-(2)② 国：各論V-9-ア	〃
43	12月6日	金属床義歯	金属床義歯の特徴と製作法について学習する コ：E-3-4)-(2)② 国：各論V-5-ア	〃
44	12月13日	口蓋補綴	口蓋裂患者の補綴方法と機能回復について学習する コ：E-3-4)-(2)② 国：各論V-9-ア	〃
45	12月13日	顎補綴	顎骨の欠損に対する顎義歯の特徴について学習する コ：E-3-4)-(2)② 国：各論V-9-ア	〃

有床義歯補綴学Ⅰ実習

科目責任者：山森 徹雄

担当教員：山森 徹雄、清野 晃孝、関根 貴仁、伊藤 隼、浅井 政一（非常勤講師）、高玉 典彦（非常勤講師）、海老原寛子（非常勤講師）ほか

1. 科目の概要

有床義歯補綴学Ⅰで理解した無歯顎補綴の理論と全部床義歯を製作・装着するための基本的技術を模型実習を通して修得する。歯科医療における技術とは、「理論を実践する技」であるとの認識に立ち、単に全部床義歯の製作過程・操作を覚えることにとどまらず、背景にある理論を併せて学ぶ。

2. 一般目標

無歯顎患者の健康を維持・増進させるために、全部床義歯を製作・装着するための技術を修得するとともに、その背景にある理論を学ぶ。

3. 到達目標

- 1) 咬合床の役割と咬合堤の標準的寸法に関する知識を基に、咬合床を製作する。
- 2) 模型を咬合器に装着する方法に関する知識を基に、咬合器を調節する。
- 3) 人工歯排列の基本的原則に則り、咬合堤に人工歯を排列する。
- 4) 回復すべき歯肉形態に関する知識を基に、自然観のある歯肉形態を形成する。
- 5) 蠟義歯をフラスクに埋没する。
- 6) 義歯床用レジン成形法と重合法に関する知識を基に、レジンを填入・重合する。
- 7) 完成義歯を咬合器に再装着する意義と方法に関する知識を基に、咬合器に再装着する。
- 8) 両側性平衡咬合における咬合接触関係に関する知識を基に、人工歯を削合する。
- 9) 義歯の研磨操作をする。

4. 講義形態

無歯顎模型を用いた全部床義歯の製作過程を通して、無歯顎患者を治療するための理論的背景と技術を学習する。実習は中央棟5階の模型実習室において、小人数のグループに分かれてチューターから個別指導を受ける。実習の進行は実習マニュアルに沿って計画的に実施されるので、限られた時間のなかで着実に学習することができる。

5. 時間外学習

予習：有床義歯学に関連する基礎科目として、口腔解剖学、口腔生理学、生体材料学の講義・実習を通して学んだ内容および有床義歯学Ⅰの講義内容を良く理解する。また事前に配布される実習プリント、教科書の関連範囲を熟読して実習に臨む。(60分)

復習：実習内容および実習講義の内容を当日中に必ず復習し、理解が不十分な項目については実習プリント、教科書により自己学習を行う。(30分)

その他：

6. 評価方法

実習中の口頭試問、レポート等にて形成的評価を行う。総括的評価は実技試験（40%）、製作物（40%）、実習毎の小テスト（10%）および出席状況（10%）により行う。

7. 教科書

細井紀雄 他 編：コンプリートデンチャーテクニック 第6版 医歯薬出版 2011年

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
1	9月6日	基準線の記入	模型に外形線・歯槽頂線を記入す コ：E-3-4)-(2)㊦ 国：各論V-6-ア	山森 徹雄 関根 貴仁 伊藤 隼 浅井 政一 高玉 典彦 海老原寛子 ほか
2	9月13日	スプリットキャスト, 上顎模型の咬合器装着, 咬合採得	スプリットキャストを形成した上顎模型を咬合器に装着する。上顎に対する下顎の位置関係を記録する コ：E-3-4)-(2)㊦ 国：各論V-6-ウ～オ	〃
3	9月20日	下顎模型の咬合器装着	顎間関係の記録をもとに下顎模型を咬合器に装着する コ：E-3-4)-(2)㊦ 国：各論V-6-ウ～オ	〃
4	9月27日	人工歯排列(1)	上顎前歯部の人工歯を排列する コ：E-3-4)-(2)㊦ 国：各論V-6-カ	〃
5	10月4日	人工歯排列(2)	上顎臼歯部の人工歯を排列する コ：E-3-4)-(2)㊦ 国：各論V-6-カ	〃
6	10月11日	人工歯排列(3)	下顎前歯部の人工歯を排列する コ：E-3-4)-(2)㊦ 国：各論V-6-カ	〃
7	10月18日	人工歯排列(4)	下顎臼歯部の人工歯を排列する コ：E-3-4)-(2)㊦ 国：各論V-6-カ	〃
8	10月25日	歯肉形成(1)	唇・頬側歯肉を形成する コ：E-3-4)-(2)㊦ 国：各論V-6-キ	〃
9	11月1日	歯肉形成(2)	口蓋側・舌側歯肉を形成する コ：E-3-4)-(2)㊦ 国：各論V-6-キ	〃
10	11月8日	歯型の採得	咬合器再装着するためのテンチの歯型を石膏で採得する コ：E-3-4)-(2)㊦ 国：各論V-6-コ	〃
11	11月15日	フラスク埋没	フラスクに蠟義歯を埋没し、流蠟する コ：E-3-4)-(2)㊦ 国：各論V-6-ケ	〃
12	11月22日	レジン填入・重合・割り出し	レジンを混和・重合し、フラスクから義歯を割り出す コ：E-3-4)-(2)㊦ 国：各論V-6-ケ	〃
13	11月29日	咬合器再装着・削合	削合を行うために重合した義歯をテンチの歯型をもとに咬合器に再装着し、咬合調整を行う コ：E-3-4)-(2)㊦ 国：各論V-6-コ	〃
14	12月6日	仕上げ研磨, 提出準備	義歯の仕上げ研磨を行い、提出の準備をする コ：E-3-4)-(2)㊦ 国：各論V-6-コ	〃
15	12月13日	提出, 実技試験	製作物を提出し、人工歯排列の実技試験を受ける コ：E-3-4)-(2)㊦ 国：各論V-6-コ	〃

口腔外科学 I

科目責任者：金 秀樹
担当教員：金 秀樹，濱田 智弘

1. 科目の概要

口腔外科学とは顎・口腔領域（口唇，頬粘膜，歯肉，口底，舌，口蓋などの軟組織と上・下顎骨とそれに植立する歯などの硬組織および隣接する顎関節，唾液腺，所属リンパ節など口唇，頬粘膜，歯肉，口底，舌，口蓋などの軟組織と上・下顎骨とそれに植立する歯，の硬組織および隣接する顎関節，唾液腺，所属リンパ節など）に生じる各種疾患（先天異常，後天異常，損傷，炎症，嚢胞，腫瘍，血液疾患，顎関節疾患，唾液腺疾患，口腔粘膜疾患，神経疾患など）を正しく診断し，外科療法を主体とした適切な治療法を行うとともに，失われた形態と口腔機能の回復を図るための理論と技術を研究する学問であり，臨床歯科医学のなかで特に広範囲な診療科目として体系づけられている。したがって，口腔および口腔に関連する組織・器官の正常な形態と機能を理解するとともに，技能を獲得するための基礎と臨床を含めた歯科医学と隣接医学の幅広い知識が必要である。

2. 一般目標

口腔外科学 I では，顎・口腔領域の疾患に罹患した患者の健康維持・増進を図るために， 1）手術総論，小手術の知識， 2）症性疾患， 3）腔粘膜疾患， 4）血液疾患， 5）損傷， 6）全身疾患と口腔病態（口腔・顔面に症状を現す全身疾患）の基礎的および臨床的な知識を習得する。

3. 到達目標

- 1）消毒法および切開，止血，縫合の種類と器具，基本術式を説明する。
- 2）外科処置と全身疾患との関連を理解し説明する。
- 3）炎症性疾患の分類と症状を説明する。
- 4）口腔粘膜疾患の分類と特徴を概説し診断と治療法を説明する。
- 5）血液疾患の分類と特徴を概説し診断と治療法を説明する。
- 6）損傷の分類と症状を概説し診断と治療法を説明する。
- 7）全身疾患と口腔病態（口腔・顔面に症状を現す全身疾患）の種類と症状を概説し診断と治療法を説明する。

4. 講義形態

文書視覚媒体と投影視覚媒体を用いて講義する。

5. 時間外学習

- 予 習：文書視覚媒体と投影視覚媒体を用いて講義する。（60分）
- 復 習：配布された資料をもとに各自ノートを作成しまとめる。
- その他：

6. 評価方法

出席・態度評価（5%），定期試験（95%）とし，65点以上を合格とする。定期試験欠席者に対して追試を行う。また，必要に応じて再試験を行う。定期試験は多肢選択および記述式試験で行う。

7. 教科書

野間弘康，瀬戸院一 編集 「標準口腔外科学」第4版 医学書院 2015年

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：)，出題基準記号(国：)	
1	4月5日	手術総論および小手術学 1	手術用器具と材料の滅菌，術者の手指の消毒 コ：E-1-4)⑥⑦⑧ 国：総論 X-5-ア	濱田 智弘
2	4月12日	手術総論および小手術学 2	切開の器具，切開法，縫の材料・器具，縫合法 コ：E-1-4)④ 国：総論 X-5-イ，エ	
3	4月18日 5 限	手術総論および小手術学 3	出血の種類，止血法 コ：E-1-4)⑤ 国：総論 X-5-ウ	〃
4	4月19日	手術総論および小手術学 4	有病者(全身疾患を有する患者)に対する観血処置の問題点 コ：E-1-3)-(1)⑥ 国：総論 X-4-ア	
5	4月26日	炎症性疾患 1	歯冠周囲炎，歯周組織炎，口底蜂巣炎，頬部蜂巣炎，歯性扁桃周囲炎，所属リンパ節炎の診断 コ：E-2-4)-(3)①～⑨ 国：各論 IV-3-ア～オ	金 秀樹
6	5月10日	炎症性疾患 2	歯冠周囲炎，歯周組織炎，口底蜂巣炎，頬部蜂巣炎，歯性扁桃周囲炎，所属リンパ節炎の治療 コ：E-2-4)-(3)①～⑨ 国：各論 IV-3-ア～オ，ケ	
7	5月17日	炎症性疾患 3	顎骨炎，歯性上顎洞炎の診断 コ：E-2-4)-(3)①～⑨ 国：各論 IV-3-ア～オ	〃
8	5月24日	炎症性疾患 4	顎骨炎，歯性上顎洞炎の治療 コ：E-2-4)-(3)①～⑨ 国：各論 IV-3-ア～オ，ケ	
9	5月31日	炎症性疾患 5	骨髄炎，放射線性骨壊死と放射線性骨髄炎の診断と治療 コ：E-2-4)-(3)①～⑨ 国：各論 IV-3-ア～サ	〃
10	6月7日	炎症性疾患 6	顎部放線菌症，口腔結核，口腔梅毒の口腔症状と診断と治療 コ：E-2-4)-(3)①～⑨ 国：各論 IV-3-ア～サ	
11	6月14日	炎症性疾患 7	菌血症，敗血症の診断と治療 コ：E-2-4)-(3)①～⑨ 国：各論 IV-3-ア～サ	〃
12	6月21日	口腔粘膜疾患 1	水疱を主徴とする疾患，紅斑・びらんを主徴とする疾患の診断と治療 コ：E-2-4)-(4)①② 国：各論 IV-ア～リ	
13	6月28日	口腔粘膜疾患 2	潰瘍を主徴とする疾患，白斑を主徴とする疾患，色素沈着を主徴とする疾患の診断と治療 コ：E-2-4)-(4)①② 国：各論 IV-ア～リ	〃
14	7月5日	口腔粘膜疾患 3	舌炎および類似疾患の診断と治療 コ：E-2-4)-(4)①② 国：各論 IV-ア～リ	
15	7月12日	口腔粘膜疾患 4	口唇炎および類似疾患の診断と治療 コ：E-2-4)-(4)①② 国：各論 IV-ア～リ	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
16	9月2日 3限	血液疾患 1	造血と血液機能, 止血機能, 血液検査と鑑別, 診断 コ：E-2-4)-(9)① 国：各論IV-16-カ	濱田 智弘
17	9月16日	血液疾患 2	鉄欠乏性貧血, 巨赤芽球性貧血, 溶血性貧血, 再生不良性貧血, 続発性貧血の診断と治療 コ：E-2-4)-(9)① 国：各論IV-16-カ	
18	9月16日	血液疾患 3	白血病の診断と治療 コ：E-2-4)-(9)① 国：各論IV-16-カ	〃
19	9月30日	血液疾患 4	血小板異常, 凝固因子異常, 血管及び血管周囲の異常, 線溶系異常の各疾患の診断と治療 コ：E-2-4)-(9)① 国：各論IV-16-カ	
20	9月30日	損傷 1	歯の脱臼, 歯の破折に対する診断と治療 コ：E-2-4)-(9)②③④ 国：各論IV-8-ア	〃
21	10月14日	損傷 2	顔面軟組織損傷, 口腔軟組織損傷に対する診断と治療 コ：E-2-4)-(9)②③④ 国：各論IV-8-ア～ウ	
22	10月14日	損傷 3	歯槽骨骨折, 上下顎骨折, 頬骨・頬骨弓骨折, 鼻骨骨折の診断 コ：E-2-4)-(2)① 国：各論IV-8-イ～ケ	〃
23	10月28日	損傷 4	歯槽骨骨折, 上下顎骨折, 頬骨・頬骨弓骨折, 鼻骨骨折の治療 コ：E-2-4)-(2)⑤⑥ 国：各論IV-8-サ	
24	10月28日	全身疾患と口腔病変 1	口腔・顎顔面領域に症状を現す症候群 コ：E-2-4)-(9)⑤ 国：各論IV-15-ア～ヌ	金 秀樹
25	11月11日	全身疾患と口腔病変 2	後天性免疫不全症候群(AIDS), 破傷風, ウイルス性肝炎の診断と治療 コ：E-2-4)-(9)①②③④⑩ 国：各論IV-16-ア	
26	11月11日	全身疾患と口腔病変 3	アレルギー性疾患の診断と治療 コ：E-2-4)-(9)③ 国：各論IV-16-ウ	〃
27	11月25日	全身疾患と口腔病変 4	免疫不全(後天性免疫不全), 免疫疾患の診断と治療 コ：E-2-4)-(9)①②③④⑩ 国：各論IV-16-ア	
28	11月25日	全身疾患と口腔病変 5	甲状腺機能異常, くる病, 上皮小体(副甲状腺)機能異常の診断と治療 コ：E-2-4)-(9)③ 国：各論IV-16-ウ, エ	〃
29	12月9日	全身疾患と口腔病変 6	副腎機構異常, 糖尿病の診断と治療 コ：E-2-4)-(9)⑧ 国：各論IV-16-エ	
30	12月9日	全身疾患と口腔病変 7	ビタミンA欠乏症, ビタミンB欠乏症, ビタミンC欠乏症, ビタミンD欠乏症の診断と治療 コ：E-2-4)-(9)⑨ 国：各論IV-16-オ	〃

高齢者歯科学Ⅰ

科目責任者：鈴木 史彦

担当教員：鈴木 史彦，本間 達也（客員教授），阪口 英夫（非常勤講師）

1. 科目の概要

現在の日本は高齢者率が21%を超える超高齢社会となった。超高齢社会の問題点の一つは有病高齢者の増加であり，健康な成人とは異なる有病高齢者特有の身体的・心理的特徴を考慮した歯科的対応や，医療と介護を含めた多職種での連携が必須となっている。高齢者歯科学Ⅰでは高齢者の特徴を理解するとともに，要介護の原因疾患を学習することで，病院や診療所への通院が困難な要介護高齢者の歯科治療，すなわち在宅歯科医療や訪問歯科診療に必要な基本的知識を学習していく。

2. 一般目標

有病高齢者の歯科治療を安全に遂行するために必要な，高齢者の特徴，治療上の注意点およびリスク回避に関する知識を理解する。

3. 到達目標

- 1）要介護の原因疾患を説明する。
- 2）高齢者に多い歯科的・身体的特徴を列挙する。
- 3）高齢者を支える保健・医療福祉について説明する。
- 4）高齢者に対するリスク管理を説明する。
- 5）要介護高齢者の歯科治療について説明する。

4. 講義形態

教科書を参考に，視覚媒体と追加資料を用いて重要項目を講義する。

5. 時間外学習

予習：履修項目を参考に教科書の範囲でキーワードをチェックし授業に臨む。(30分)

復習：配布された参考資料やノートを復習し，必要に応じて教科書の該当項目を確認する。(30分)

その他：質問があれば教員が直接対応する。

6. 評価方法

定期試験（90％）と授業態度（10％）により評価し，65点以上を合格とする。定期試験欠席者に対しては追試験を行う。また，必要に応じて再試験を行う。

7. 教科書

老年歯科医学 医歯薬出版

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：)，出題基準記号(国：)	
1	9月2日 2限	総論	高齢者歯科学の概要 コ：E-4-3) 国：各論VI-10～17	鈴木 史彦
2	9月9日	高齢者の特徴	身体的特徴と心理的特徴 コ：E-4-3)① 国：総論VIII-5-ア, イ	〃
3	9月9日	口腔の加齢	加齢に伴う顎・口腔および嚥下機能の変化 コ：E-4-3)② 国：総論VI-12-ア～オ	〃
4	9月23日	要介護の原因疾患1	脳血管障害 コ：E-4-3)③ 国：必修15-ホ-b	〃
5	9月23日	要介護の原因疾患2	認知症 コ：E-4-3)③ 国：必修15-ホ-b	〃
6	10月7日	要介護の原因疾患3	パーキンソン病，神経筋疾患 コ：E-4-3)③ 国：必修15-ホ-b	〃
7	10月7日	介護保険制度	要介護認定，地域包括ケアシステム コ：E-4-3)⑤ 国：必修3-カ-d	〃
8	10月21日	チーム医療	チーム医療，多職種連携，医療介護連携 コ：E-4-3)⑤ 国：必修16-ア-a～c	本間 達也
9	10月21日	高齢者の施設	介護老人保健施設，介護老人福祉施設 コ：B-2-2)⑤⑧ 国：総論Ⅰ-3-エ	〃
10	11月4日	高齢者と薬剤	他科処方薬剤との併用，配慮，服薬指導 コ：E-4-3)⑥ 国：総論X-9	鈴木 史彦
11	11月4日	感染予防対策	感染予防の原則と実際，高齢者と感染予防 コ：E-4-3)⑧ 国：必死有4-ウa, b	〃
12	11月18日	口腔ケア	器質的口腔ケアと機能的口腔ケア コ：B-3-2)⑤ 国：各論Ⅰ-6-ア～ウ	阪口 英夫
13	11月18日	在宅歯科医療	在宅歯科医療の目的，実際，診療の限界 コ：E-4-3)⑨ 国：各論VI-14	〃
14	12月2日	栄養管理	栄養管理，栄養サポートチーム(NST) コ：E-4-3)⑪ 国：総論X-7-カ, キ	鈴木 史彦
15	12月2日	構音障害・発音障害	構音障害・発音障害のリハビリテーション コ：E-4-3)⑪ 国：各論X-7-ウ	〃

歯科放射線学 I

科目責任者：原田 卓哉

担当教員：原田 卓哉，茂呂祐利子

1. 科目の概要

放射線の医学利用には放射線診断や放射線治療があり，患者に利益をもたらしている一方で，被曝による危険も共存しています。放射線利用には，知識や技術的なことはもちろん，良識のある放射線診療・インフォームドコンセントも重要になります。

歯科放射線学は基礎放射線学として放射線物理学，放射線生物学，放射線化学を，また臨床放射線学として放射線診断学，放射線治療学，放射線防護学を学びます。基礎放射線学では，放射線の基礎的知識やその生物学的影響を学び，臨床放射線学では放射線を利用した画像診断，放射線治療に必要な撮影技術，腫瘍治療学さらに放射線防護について学びます。

2. 一般目標

- 1) 歯科医療に必要な放射線を有効かつ安全に利用するために，放射線の取り扱いに関する知識，技術および態度を修得する。
- 2) 歯科領域の画像検査を適切に実施するために，画像検査の種類，特徴，技術および適応を理解する。

3. 到達目標

- 1) 電離放射線の種類，性質および単位について述べる。
- 2) 放射線の生体に対する影響について述べる。
- 3) エックス線画像形成について述べる。
- 4) 口内法エックス線撮影について述べる。
- 5) パノラマエックス線撮影について述べる。
- 6) 口外法エックス線撮影について述べる。
- 7) 特殊撮影について述べる。

4. 講義形態

- 1) 講義，示説で学習する。
- 2) 文書，視覚媒体を用いる。
- 3) 投影視覚媒体を用いる。

5. 時間外学習

予習：教科書の熟読を中心に予習する。(60分)

復習：教科書および講義ノートの振り返りにより復習する。(60分)
その他：

6. 評価方法

定期試験を行う。定期試験100%により評価し，65点以上を合格とする。

7. 教科書

岡野友宏 他 「歯科放射線学 第5版」医歯薬出版 2013年

佐野 司 編 「歯科放射線マニュアル」 南山堂 2006年

8. 参考書

田口 明 著「基礎から始める歯科放射線学」IDP出版 2012年

日本歯科放射線学会編 「歯科臨床における画像診断アトラス」医歯薬出版 2008年

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：)，出題基準記号(国：)	
1	9月7日	電離放射線	原子とその構造，電離と励起，電離放射線 コ：E-1-2)-① 国：総論IX-2-ア	原田 卓哉
2	9月7日	画像検査法の選択	病歴の取り方，画像検査のための推定診断 コ：E-1-1)-⑧⑨⑪ 国：総論VIII-1-イウオカ	〃
3	9月14日	放射線の線量と単位	放射線の種類と分類，線量，放射能，エネルギー コ：E-1-2)-① 国：総論IX-2-イ，ウ	〃
4	9月14日	口内法撮影	口内法撮影の原理，水平的角度，垂直的角度 コ：E-1-2)-⑥⑦ 国：総論IX-2-ケ	茂呂祐利子
5	9月21日	エックス線の特徴	エックス線と物質との相互作用，物質透過作用，電離作用，写真作用 コ：E-1-2)-① 国：総論IX-2-ア	原田 卓哉
6	9月21日	パノラマエックス線撮影	パノラマエックス線撮影，断層域，被写体の位置づけ コ：E-1-2)-⑥⑦⑧ 国：総論IX-2-コサ	〃
7	9月28日	エックス線撮影装置 1	エックス線の発生原理，エックス線管 コ：E-1-2)-⑤ 国：総論IX-2-エ	〃
8	9月28日	頭部エックス線撮影	後頭前頭方向撮影法，側方向撮影法，軸方向撮影法 コ：E-1-2)-⑧ 国：総論IX-2-サ	〃
9	10月5日	エックス線撮影装置 2	口内法撮影装置，パノラマエックス線撮影装置 コ：E-1-2)-⑤⑥ 国：総論IX-2-エ	〃
10	10月5日	顎関節，セファロ	顎関節撮影法，頭部エックス線規格撮影法(セファログラム) コ：E-1-2)-⑧ 国：総論IX-2-サ	〃
11	10月12日	デジタルエックス線撮影装置	デジタルデータとは，デジタルデータの意義 デジタルエックス線撮影装置 コ：E-1-2)-④⑤⑥ 国：総論IX-2-カ	〃
12	10月12日	断層撮影，造影撮影	断層撮影の概要，造影剤の種類，造影剤の具備すべき条件 コ：E-1-2)-⑧⑨ 国：総論IX-2-サチ	〃
13	10月19日	エックス線フィルム，増感紙	エックス線フィルムの構造および種類増感紙の構造，種類，ならびに具備すべき条件 コ：E-1-2)-④ 国：総論IX-2-オ	〃
14	10月19日	エックス線CT 1	エックス線CTの概要，エックス線CT装置の構造と役割 コ：E-1-2)-⑨ 国：総論IX-2-シス	〃
15	10月26日	エックス線写真処理	現像(広義)の定義，現像の手順と意義，使用薬剤の意義 コ：E-1-2)-④ 国：総論IX-2-オ	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
16	10月26日	エックス線CT 2	組織のエックス線吸収率とCT値との関係, ピクセル, ボクセル, 部分容積効果 コ：E-1-2)-⑨ 国：総論IX-2-シス	原田 卓哉
17	11月2日	画像形成	潜像核, 潜像, 金属銀の生成半影, 幾何学的不鋭, 幾何学的関係 コ：E-1-2)-④ 国：総論IX-2-オ	〃
18	11月2日	MRI原理 1	MR I の概要, 原子核のスピン, 共鳴 コ：E-1-2)-⑨ 国：総論IX-2-セ	〃
19	11月9日	コントラスト	エックス線コントラスト, 特性曲線(黒化度曲線) コ：E-1-2)-④ 国：総論IX-2-オ	〃
20	11月9日	MRI原理 2	縦緩和(スピナー格子緩和), 横緩和(スピナー スピン緩和) コ：E-1-2)-⑨ 国：総論IX-2-セ	〃
21	11月16日	鮮鋭度と解像力, 画質	画質の定義, 画質を低下する因子 コ：E-1-2)-④ 国：総論IX-2-オ	〃
22	11月16日	MRI特徴	組織性状および病変と信号強度の関係撮影 禁忌 コ：E-1-2)-⑨ 国：総論IX-2-セ	〃
23	11月30日	被曝, 生体への影響	放射線の種類による影響, 人体への影響 コ：E-1-2)-② 国：総論IX-2-キ	〃
24	11月30日	超音波検査 1	超音波検査の概要, 超音波検査装置 コ：E-1-2)-⑨ 国：総論IX-2-タ	〃
25	12月7日	生物学的作用	組織の放射線感受性, 放射線障害 コ：E-1-2)-② 国：各論IX-2-キ	〃
26	12月7日	超音波検査 2	音響インピーダンス, エコーレベル, エラスト グラフィ コ：E-1-2)-⑨ 国：総論IX-2-タ	〃
27	12月14日	防護	医療被曝, 職業被曝, 公衆被曝, ガイダンス レベル コ：E-1-2)-③ 国：総論IX-2-キ	〃
28	12月14日	核医学検査	単光子放出型CT(SPECT), 陽電子放出 型断層撮影(PET) シンチグラフィ, ラジオ イムノアッセイ コ：E-1-2)-⑨ 国：総論IX-2-ウソ	〃
29	12月21日	画像情報システム	D I C O M, P A C S, 画像情報システム病 院情報システム コ：E-1-2)-⑤⑥⑦⑧⑨ 国：総論IX-2-ク	〃
30	12月21日	放射線治療	放射線治療の概要, 外部照射, 組織内照射放 射線治療の副作用 コ：E-2-4)-(5)-(7)⑫⑬ 国：総論X-8-ア～エ	〃

法 歯 学

- 科目責任者：花岡 洋一
- 担当教員：花岡 洋一，板橋 仁，小林 克男（非常勤講師）
1. 科目の概要
- 法医学・法歯学は，応用医・歯学における社会医歯学の一分野として位置づけられ，特に法歯学は「歯科医学の知識を応用し，法律上，裁判上必要な歯科領域の証拠を検査・処理し，正当な評価を行い提示することを最終的な目的とした学問」である。
- 近年歯科医師には，口腔領域を中心とした顎顔面領域の健康管理だけではなく，歯科医学の知識を応用して社会の必要性に応えるべく，新たな役割が求められている。講義では，その一翼を担う法医学・法歯学の基礎および臨床的内容について理解する。
2. 一般目標
- 社会に貢献する歯科医師になるために，法医学・法歯学の基礎的知識を身につけ，社会における歯科医の役割を理解する。
3. 到達目標
- 1）法医学・法歯学の基礎的知識とその応用方法を説明する。
- 2）社会における歯科医師の役割を説明する。
- 3）大規模災害時における歯科医師の役割を説明する。
4. 講義形態
- 座学による講義。講義では視覚素材，配布資料を用いた解説を行う。
5. 時間外学習
- 予習：教科書の該当項目を一読しておく。（10分）
- 復習：講義時の配布資料と書き込みを元に，不明な点を明確にする（10分）。
- その他：
6. 評価方法
- 筆記試験（90％），出席状況（10％）により評価し，これに講義内における質問への回答を加点。
7. 教科書
- 臨床法医学テキスト；佐藤喜宣編著；中外医学社
8. 参考書
- なし

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：)，出題基準記号(国：)	
1	9月7日	総論	法医学・法歯学の定義と歴史 コ：A-3-⑤	花岡 洋一
2	9月14日	法医学総論	法歯学・法歯学における解剖用語と対象 コ：A-3-⑤，C-2-1-①② 国：必6-ウーb	〃
3	9月21日	法医学各論1	死因究明制度と死体解剖 コ：A-3-⑤ 国：総論Ⅰ-5-ア	〃
4	9月28日	法医学各論2	死体現象 コ：B-2-3)-①② 国：総論Ⅰ-5-イ	〃
5	10月5日	法医学各論3	血液型1 コ：B-2-3)-① C-2-3)-(11)-3 国：総論Ⅰ-5-ウ	〃
6	10月12日	法医学各論4	血液型2 コ：B-2-3)-① C-2-3)-(11)-3 国：総論Ⅰ-5-ウ	〃
7	10月19日	法医学各論5	DNA型 コ：C-1-2)-①～④ 国：必6-アーa 総論Ⅲ-1-5-エ	〃
8	10月26日	法歯学総論	歯科医と法律 コ：A-5-2)-①④ B-2-1)-①②③ 国：必2-ウーa, b, c, e	〃
9	11月2日	法歯学各論1	歯科的個人識別－歯から何がわかるのか？－ コ：B-2-3)-①② 国：総論Ⅰ-5-ウ	〃
10	11月9日	法歯学各論2	性別判定 コ：B-2-3)-①②, C-2-2)-①, C-2-3)-(10)-①	〃
11	11月16日	法歯学各論3	年齢推定 コ：B-2-3)-①②, C-2-4)-①, E-2-3)-③ E-3-1)-①, E-4-3)-② 国：総論Ⅰ-5-ウ, V1-ク, V-6-ア	〃
12	11月30日	法歯学各論4	年齢推定 コ：B-2-3)-①②, C-2-4)-①, E-2-3)-③ E-3-1)-①, E-4-3)-② 国：総論Ⅰ-5-ウ, V1-ク, V-6-ア	〃
13	12月7日	社会と歯科の関わり1	大規模災害時における歯科医の役割1 コ：B-2-3)-①② F-5-①② 国：総論Ⅰ-5-ウ, 4-ク	〃
14	12月14日	社会と歯科の関わり2	大規模災害時における歯科医の役割2 コ：B-2-2)-① E-4-3)-④ 国：総論Ⅰ-4-ク 総論Ⅶ-2-ケ-a 各論Ⅵ-15-イ	花岡 洋一 板橋 仁
15	12月21日	社会と歯科の関わり3	虐待防止 コ：E-4-2)-⑫, A-7-2)-③④,, F-1-④, F-1-⑤ 国：総論Ⅱ-2-エ	花岡 洋一

総合医学

科目責任者：馬場 優
担当教員：馬場 優，鶴木 隆（客員教授）

1. 科目の概要

顔面・顎・口腔外科，歯科を専門分野とする歯科医師にとって，医学（外科，内科ほか）を学習することは必須である。なぜなら，学問では歯学，医学と分かれているが，患者に対しては歯科と医科の総合的治療が行われなければならないからである。総合医学担当の馬場は医師免許，鶴木隆教授は医師と歯科医師の両免許を持ち，総合医療を実践してきた。この立場，経験で歯学部学生にとって必要な内容の講義を行う。

2. 一般目標

臨床歯学の土台となる外科学・内科学の内容を概観し，病の病態，診断，治療に関する知識を習得する。

3. 到達目標

- 1）医の倫理について説明できる
- 2）インフォームド・コンセントについて説明できる
- 3）医療安全の意義について説明できる
- 4）主要な症候と対処法について列挙できる
- 5）内科疾患の診断と治療について説明できる

4. 講義形態

講義開始前にテキストブックを配布し，テキストブックの内容に沿って講義する。

5. 時間外学習

予 習：教科書の熟読を中心とした予習を行う。（30分）
復 習：教科書・テキストブックの熟読を中心とした復習を行う。（30分）
その他：特になし

6. 評価方法

出席・態度評価（5％），定期試験（95％）とし，65点以上を合格とする。定期試験欠席者に対して追試験を行う。再試験は1回のみとする。再試験において65点以上を合格とする。なお再々試験は行わない。

7. 教科書

水野嘉夫 「歯科医師が知っておくべき全身疾患」 一世出版，吉野肇一 「外科学」医学書院

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：)，出題基準記号(国：)	
1	9月2日	総論 1	歯学部学生がなぜ医学を学習するのか コ：E-4－6)① 国：各論IV－18 - ア～ク	鶴木 隆
2	9月9日	総論 2	病歴および現症の取り方・口腔のケア コ：E-4－6)②～③ 国：必修-3-ケ-abc, コ-ab	
3	9月16日	総論 3	内科学総論，腫瘍学総論 コ：E-4－6)①～⑤ 国：総論VI-7 - ア～ケ	馬場 優
4	9月23日	代謝性疾患	糖尿病，肥満，痛風，骨粗鬆症，高脂血症 コ：E-4－6)①～⑤ 国：各論IV-17 - ケ	
5	9月30日	消化器疾患 1	消化器疾患，肝機能障害 コ：E-4－6)①～⑤ 国：各論IV-17 - ウ	〃
6	10月7日	消化器疾患 2	歯科治療中に起こる誤嚥・誤飲事故，口腔衛生と全身疾患 コ：E-4－6)①～⑤ 国：各論IV-17 - ウ, 各論IV-18 - キ	
7	10月14日	院内感染，外科総論	院内感染，AIDS，外科総論 コ：E-4－6)①～⑤ 国：IV必修-4 - ウーabcd	〃
8	10月21日	内分泌学・救急医学	内分泌疾患，救急医療，バイタルサイン コ：E-4－6)①～⑤ 国：各論IV-17 - ク	
9	10月28日	呼吸器・脳疾患	呼吸器疾患，脳神経・血管障害 コ：E-4－6)①～⑤ 国：各論IV-17 - ア, オ	〃
10	11月4日	血液・腎臓	血液疾患・腎疾患 コ：E-4－6)①～⑤ 国：各論IV-17 - エ, キ	
11	11月11日	アレルギー・膠原病	アレルギー性疾患・リウマチ性疾患 コ：E-4－6)①～⑤ 国：各論IV-16 - ウ - abcd	〃
12	11月18日	循環器・歯科心身症	循環器疾患・歯科心身症 コ：E-4－6)①～⑤ 国：各論IV-17 - イ, カ	
13	11月25日	耳鼻咽喉科学	耳鼻咽喉科学 コ：E-4－6)①～⑤ 国：各論IV-13 - ア, カ～コ, ス	〃
14	12月2日	頭頸部外科学	頭頸部外科学 コ：E-4－6)①～⑤ 国：各論IV-12 - ウ, サ, タ, チ	
15	12月9日	禁煙	タバコ：歯科医師は喫煙してはならない。なぜか？ コ：E-4－6)①～④ 国：総論II-1－ウ	鶴木 隆

口腔内科学

科目責任者：高田 訓
担当教員：高田 訓，菅野 勝也，須賀賢一郎（非常勤講師），中江 次郎（非常勤講師）

1. 科目の概要

口腔内科では、全身疾患と口腔病変との関連や口腔粘膜疾患、唾液腺疾患、顎関節疾患、口腔心身症、不定形疼痛症の診断、原因、予防、治療法を学び研究する学問である。臨床歯科医学のなかで口腔外科学に次いで、広範囲な領域に及ぶ知識を必要とし、全身的な組織・器官の正常な形態と機能を理解し、基礎と臨床を含めた歯科医学と隣接医学の幅広い知識が必要である。

2. 一般目標

口腔内の疾患を理解し、臨床の現場で診断・治療するために、各種疾患の定義・原因・治療法を総合的に修得する。

3. 到達目標

- 1) 各種疾患の診断に必要な検査方法を理解する
- 2) 全身状態と口腔病変との関連を理解する
- 3) 全身状態を医学的に評価することができる
- 4) 口腔粘膜疾患の原因・治療法を概説できる
- 5) 口腔心身症の原因・治療法を概説できる
- 6) 顎関節疾患の原因・治療法を概説できる
- 7) 唾液腺疾患の原因・治療法を概説できる
- 8) 神経疾患の原因・治療法を概説できる
- 9) 口腔顔面痛の原因・治療法を概説できる
- 10) 睡眠障害の原因・治療法を概説できる
- 11) 摂食・嚥下障害の原因・治療法を概説できる

4. 講義形態

教科書持参を必須とし、プロジェクター・板書・穴埋めプリントを用いる。

5. 時間外学習

授業前に、シラバスの授業内容を参照し、教科書の該当項目をチェックする。その中に表記されている専門用語を事前に検索し授業に臨む。(30分)

6. 評価方法

前期・後期定期試験において正解率が65%未満の者に対して、各期1回ずつ追・再試験を行う。
最終評価として、前期・後期定期試験の平均正解率が65%以上の者を合格とする。

7. 教科書

山根源之，草間幹夫 編集 口腔内科学 末永書店 2016年

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：)，出題基準記号(国：)	
1	4月8日	診査・診断	医療面接事項 コ：E-1-1) 国：総IX1-ア～ウ	高田 訓
2	4月15日	症候・検査・炎症	症状や症候の種類・炎症と検査 コ：E-2 国：総VII1-ア, 2-エ～ク, IX3-ア～キ	〃
3	4月18日	口腔粘膜疾患	口腔粘膜疾患の概要と治療概念 コ：E-2-4)-(4) 国：総VI11-ウ	〃
4	4月22日	損傷	損傷の概念と治療概念 コ：E-2-4)-(2) 国：総VI11-ク	〃
5	5月6日	顎関節疾患	顎関節疾患の概要と治療概念 コ：E-2-4)-(6) 国：総VI11-オ	〃
6	5月13日	唾液腺疾患	唾液腺疾患の概要と治療概念 コ：E-2-4)-(7) 国：総VI11-エ	菅野 勝也
7	5月20日	神経疾患	神経疾患の概要と治療概念 コ：E-2-4)-(8) 国：総III2-キ, IV3-ス, VI8-エ	〃
8	5月27日	嚢胞- 1	嚢胞の分類と概要 コ：E-2-4)-(5) 国：総VI11-カ	〃
9	6月3日	嚢胞- 2	嚢胞の治療概念 コ：E-2-4)-(5) 国：総VI11-カ	〃
10	6月10日	腫瘍- 1	腫瘍の分類と概要 E-2-4)-(5) 国：総VI11-キ	〃
11	6月17日	腫瘍- 2	腫瘍の治療概念 E-2-4)-(5) 国：総VI11-キ	〃
12	6月24日	血液疾患	血液疾患の概要と治療概念 コ：E-2-4)-(9) 国：必15-歩	高田 訓
13	7月1日	全身疾患と口腔病態	口腔疾患に伴う口腔の変化 コ：E-2-4)-(9), (10) 国：総VI11-ケ	〃
14	7月8日	診断	全身状態の把握，老年者，障害者への対応 コ：E-1-1), 2), E-4-4) 国：必8-ウ, 9-ア, イ, ウ, 必15-カ	〃
15	7月15日	臨床検査	各種検査法と臨床検査結果の意義 コ：E-1-1), 2) 国：必11-ア, イ, ウ	〃
16	9月2日	顎口腔機能検査	嚥下・咀嚼・味覚検査 コ：E-1-1) 国：必11-エ, 総VII2-ク, IX1-ソ～テ	〃
17	9月9日	治療学	薬物療法，口腔ケアと周術期管理 コ：E-4-4) 国：必15-ヒ, 総X9-サ～ス	〃
18	9月16日	歯科と全身疾患- 1	血液・循環器・呼吸器・消化器・腎疾患 コ：E-2-4)-(9), E-4-6) 国：必9-ウ, エ, 14-イ	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
19	9月23日	歯科と全身疾患- 2	内分泌疾患・アレルギー・脳血管・感染症 コ：E-2-4)-(9), E-4-6) 国：必9-ウ, エ, 14-イ	高田 訓
20	9月30日	先天異常	先天異常の概要と治療概念 コ：E-2-4)-(1) 国：総VI11-ア	須賀賢一郎
21	10月7日	後天異常	後天異常の概要と治療概念 コ：E-2-4)-(1) 国：総VI12-ア～ウ	〃
22	10月14日	皮膚口腔粘膜疾患- 1	色素沈着・白斑・紅班・びらんを伴う疾患 コ：E-2-4)-(4) 国：必9-ウ, エ, 14-イ	菅野 勝也
23	10月21日	皮膚口腔粘膜疾患- 2	水泡・潰瘍・腫瘍性の疾患 コ：E-2-4)-(4) 国：必9-ウ, エ, 14-イ	〃
24	10月28日	口腔乾燥症と口臭	口腔乾燥と口臭症の原因・治療 コ：E-2-4)-(7), E-2-4)-(10)⑤ 国：各 I 4-ア～ウ, 5-エ, 各VI11-ア	中江 次郎
25	11月4日	口腔(歯科)心身症	心因性疾患・不定形疼痛性疾患 コ：E-4-5) 国：必14-イ, 総VI8-ア～エ, 各IV16-ク, 各VI10-ア	〃
26	11月11日	味覚障害	味覚異常を起こす病態・病因 コ：E-2-4)-(10)④ 国：各 I 5-カ, 各VI10-キ	〃
27	11月18日	接触・嚥下障害	摂食・嚥下障害を起こす疾患, 診断と訓練 コ：E-4-3), E-2-4)-(10)② 国：必14-イ, 15-フ, ヘ	〃
28	11月25日	顎関節疾患	顎関節の疼痛・変形・顎関節症 コ：E-2-4)-(6) 国：必14-イ	高田 訓
29	12月2日	睡眠障害	睡眠障害を起こす疾患, 睡眠時無呼吸症候群 コ：C-2-3)-(7) 国：必9-ア, 総VII1-ア, 各V1-ク	〃
30	12月9日	医療安全と感染症対策	院内感染予防対策と滅菌・消毒 コ：A-5, C-3-1)⑥ 国：必4-ウ, 15-ク	〃